

身近すぎて気づかない

# 地域の魅力



あなたも掘り起こしてみませんか？



「地域のお宝」を学び地域活動を担う

高校生育成事業



活動事例集





## はじめに

人口減少と少子高齢化が進む中、本県の抱える様々な課題を解決し、地域社会を活性化していくためには、子どもたちが地域資源を広く学びながらその良さを再認識し、地域の魅力を発信していけるよう、社会全体で人財\*育成に取り組んでいくことが期待されております。

このため、県教育委員会では、平成30年度から「『地域のお宝』を学び地域活動を担う高校生育成事業」を実施し、県内12市町村の実行委員会において、企業やNPO等の団体、そして市町村教育委員会等の関係者の皆様の御協力のもと、それぞれの地域の高校生が自らの視点で自分たちの住むまちの魅力を紹介するストーリー「地域のお宝物語」の企画及び実践の取組を進めていただきました。

それぞれの実行委員会へ自主的に参加した高校生たちは、これまで研修会や取材活動など数々のワークショップを行い、地域の食や歴史、伝統芸能、観光資源などに焦点をあてながら、それらにまつわる体験的な学びを展開してきました。

その活動成果の発表や交流の場として、平成30年度は「高校生による『地域のお宝物語』プレ発表会」と題し、各実行委員会の高校生たちが取組の中間発表として、企画内容や活動の軌跡を紹介しました。そして、今年度は、平成30年度の企画内容をブラッシュアップし、お宝の魅力を掘り下げ、情報発信につなげることとし、2年間の活動を通して紡いだストーリー「地域のお宝物語」の発表会である「『地域のお宝物語』プレゼン大会」を開催しました。

本冊子は、この2年間で取り組んだ12市町村実行委員会の実践活動の概要・成果や「『地域のお宝物語』プレ発表会」及び「『地域のお宝物語』プレゼン大会」の実施概要等を紹介するものとなっております。高等学校のみならず全ての学校における地域について学習する教材としての活用や市町村教育委員会の生涯学習・社会教育の推進に携わる方々、地域活動に取り組んでいる方々の参考になれば幸いです。

結びに、本事業に携わっていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

令和2年3月

青森県教育庁

生涯学習課長 葛西 浩一

\*人は青森県にとって「財（たから）」であるという基本的な考え方から、この冊子では「人材」を「人財」としている。



# Contents

## 第1章 「地域のお宝物語」実践事業 各実行委員会実施報告

|       |  |    |
|-------|--|----|
| No.01 | 「地域のお宝物語」青森市実行委員会 ……………                            | 1  |
|       | 男の3分間クッキング 青森魅力発信編                                 |    |
| No.02 | 「地域のお宝物語」平内町実行委員会 ……………                            | 5  |
|       | 平内町とハクチョウとおばちゃんと。                                  |    |
| No.03 | 「地域のお宝物語」五所川原市実行委員会 ……………                          | 9  |
|       | おいでよ春夏秋冬ごしょがわら                                     |    |
| No.04 | 「地域のお宝物語」つがる市実行委員会 ……………                           | 13 |
|       | 僕らの初恋物語「馬ねぶたに捧げた夏」                                 |    |
| No.05 | 「地域のお宝物語」黒石市実行委員会 ……………                            | 17 |
|       | 上十川地域に語り継がれる伝統文化                                   |    |
| No.06 | 「地域のお宝物語」大鰐町実行委員会 ……………                            | 21 |
|       | OH!!鰐元気隊キッズが町を元気にする!                               |    |
| No.07 | 「地域のお宝物語」三沢市実行委員会 ……………                            | 25 |
|       | みさわBBQの魔法  |    |
| No.08 | 「地域のお宝物語」野辺地町実行委員会 ……………                           | 29 |
|       | 素晴らしき四季～魅力あふれる野辺地町～                                |    |
| No.09 | 「地域のお宝物語」むつ市実行委員会 ……………                            | 33 |
|       | おーちゃんとゆく!ワクワク大湊探検                                  |    |
| No.10 | 「地域のお宝物語」東通村実行委員会 ……………                            | 37 |
|       | 東通村の地域資源を活用した「社会起業」<br>～高校生カフェ「Re Youth」の設立に向けた挑戦～ |    |
| No.11 | 「地域のお宝物語」三戸町実行委員会 ……………                            | 41 |
|       | 郷土の食を学び、三戸町“粉もん文化”の新レシピを紹介                         |    |
| No.12 | 「地域のお宝物語」階上町実行委員会 ……………                            | 45 |
|       | 階上キッズではしかみいとこ広め隊!                                  |    |

## 第2章 「地域のお宝」を学び地域活動を担う高校生育成事業について

|   |                                |    |
|---|--------------------------------|----|
| 1 | 事業概要について ……………                 | 49 |
| 2 | 「地域のお宝物語」プレ発表会（中間発表会）の開催 …………… | 51 |
| 3 | 「地域のお宝物語」プレゼン大会の開催 ……………       | 53 |
| 4 | 事業発信の案内（事業紹介ウェブページ） ……………      | 55 |

# No.01 「地域のお宝物語」 青森市実行委員会

1

## 活動のテーマ・方針

青森の魅力を発信する活動にチャレンジしながら、自己のコミュニケーションやプレゼンテーションの力を磨き、創造力、交渉力、開発力、発信力などを高める。



H30 実行委員会の様子

2

## 団体の概要（委員の所属等）

※高校生参加者は32名。7班構成とし班長を実行委員にしている。

### 高校生の委員/参加者

県立青森西高等学校 2名/10名  
県立青森南高等学校 1名/4名  
県立青森北高等学校 4名/18名  
計7名/32名

### 大人の委員

NPO法人日本人財発掘育成協会（委員長）  
NPO法人コミュニサーあおもり  
青森市教育委員会（文化学習活動推進課）  
パワフルAOMORI！創造塾28期生  
学生団体レスタ  
計8名

3

## 取組内容（事業実施の流れ）

### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

- H30. 7.16 第1回研修会 場所：新町オフィス  
・ガイダンス、新町ロケハン
- H30. 8.16～9.2 第1回実習 5回に分けて実施  
・異年齢交流（寺子屋体験）
- H30. 8.20/9.1 第2回研修会 2回に分けて実施  
・分散型思考ワークショップ
- H30. 9.6 第1回実行委員会 場所：新町オフィス  
・事業計画と進捗状況について
- H30. 9.15 第3回研修会 場所：ワ・ラッセ  
・コミュニケーション、プレゼンテーション
- H30. 9.23 第4回研修会 場所：県総合社会教育センター  
・ファシリテーショングラフィック
- H30. 9.30 第2回実習 場所：県総合社会教育センター  
・生涯学習フェア参加
- H30.10.21 第1回実践活動  
場所：地域再生青森オフィス  
・グッズ、フードの素材さがし
- H30.10.28～10.29 第2回実践活動 2回に分けて実施  
・実践活動に係る企画書、試作計画書の作成
- H30.11.11 第3回実践活動  
場所：県総合社会教育センター  
・フードの試作①
- H30.12.9 「地域のお宝物語」研修・交流会  
(東青・下北地区)  
場所：県立図書館



H30 分散型思考ワークショップの様子



H30 フードの試作の様子

- H30.12. 9 第5回研修会 場所：県総合社会教育センター  
・人間関係と発達障害
- H30.12.16 第6回研修会 場所：県総合社会教育センター  
・学生団体交流会参加、ワールドカフェ参加
- H30.12.23 第4回実践活動 場所：県総合社会教育センター  
・フードの試作②
- H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会  
場所：県総合社会教育センター 5名参加
- H31. 3. 3 第7回研修会 場所：県総合社会教育センター  
・ドリームマップ
- H31. 3. 3 第2回実行委員会 場所：県総合社会教育センター  
・振り返り（反省と課題）

### 【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践

- R 1. 6.16 第1回研修会 場所：県総合社会教育センター  
・インサイド・アウトの姿勢と活動計画の作成
- R 1. 7. 7 メディア実習① 場所：KITTO PARK  
・SNS、映像の活用の仕方
- R 1. 7.15 第1回実行委員会  
場所：県総合社会教育センター  
・事業計画と具体的活動について
- R 1. 7.15 ヒューマンライブラリー vol.1  
場所：県総合社会教育センター  
・話を聴くこと、共感を得るとは
- R 1. 7.28 メディア実習② 場所：アウガ  
・動画の構想と絵コンテ作成
- R 1. 8.11 映画ワークショップ1 場所：カダール  
・映画「ふるさとがえり」視聴と意見交換
- R 1. 8.12 映画ワークショップ2 場所：カダール  
・短編映画の作成
- R 1. 8.16~9. 2 異年齢交流体験 5回に分けて実施  
・寺子屋ありす参加
- R 1. 8.18 メディア実習③  
場所：カダール、県総合社会教育センター  
・フードの最終試作（1期生）、  
ロケハン（2期生）
- R 1. 9. 8 ヒューマンライブラリー vol.2  
場所：県立図書館  
・話を聴くこと、共感を得るとは
- R 1. 9.15 メディア実習④ 場所：カダール、県総合社会教育センター  
・フードの完成と動画撮影（1期生）、取材と撮影（2期生）
- R 1. 9.29 生涯学習フェア準備 場所：県総合社会教育センター  
・イベント参加のための準備（他人にアピールするとは）
- R 1.10. 5 生涯学習フェア 場所：県総合社会教育センター  
・開発した青森フードを販売（1期生）、販売補助（2期生）
- R 1.11.10 メディア実習⑤ 場所：和田ビル  
・動画編集、上映会
- R 1.12.15 学生団体交流会準備 場所：県総合社会教育センター  
・チームでイベントを作り上げる準備
- R 1.12.22 学生団体交流会・ワールドカフェ 場所：東奥日報新町ビル  
・プレゼンテーションと意見交換の実践体験
- R 2. 1.12 第2回研修会 場所：青森市森林博物館  
・YouTubeへのアップ方法、記録集作成準備
- R 2. 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
場所：アピオあおもり（県男女共同参画センター） 5名参加
- R 2. 2.23 第2回実行委員会 場所：青森市民ホール  
・振り返り（反省と課題）
- R 2. 2.23 第3回研修会 場所：青森市民ホール  
・振り返り



R 1 メディア実習の様子



R 1 ヒューマンライブラリーの様子

## 4

## 成果と課題

成果：ヒューマンライブラリー、映画ワークショップ、寺子屋体験など、様々な貴重な体験をすることができたこと。また、それらの活動を通して、普段は接することのない年齢や職業等、多様な人々と交流ができたこと。さらには、チームのメンバーと協力し合い協調と協働の活動ができたこと。これらによって、無理なく、確実に内面を磨くことができたと思う。

課題：委託事業終了後は、NPO法人日本人財発掘育成協会の事業として継続する予定であるが、活動に要する経費の財源をどう確保するかが当面の課題である。また、この2年間は、様々な経験をする、様々な人と出会うなど、「幅を広げる」ことに重点をおいてきたが、今後は「深める」「高める」にシフトする計画であるため、具体的な方策を検討する必要がある。



R 1 学生団体交流会での発表の様子

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・参加した生徒たちの前向きな姿勢
- ・Jinzai-Japan、レスタなど、様々な機関との連携ができたこと
- ・講師、応援者などの「人」に恵まれたこと
- ・高等学校の理解と協力が得られたこと

## 苦勞したこと

- ・参加生徒たちのモチベーションの維持
- ・活動日の日程調整（参加者が複数校、複数学年であるため）
- ・活動内容における多様性と継続性のバランス（限られた日数の中での調整）
- ・活動場所の確保

## 6

## 委員の感想

## &lt;高校生の委員&gt;

- ・色々な場所の魅力を知ることができた。また、初めは受け身だったけれど、大勢の前で発表という貴重な体験ができたので、この企画に参加してよかったと思う。
- ・コミュニケーション能力やプレゼンについて学び、幅広い人達と話し合いをすることがとても楽しいと感じるようになった。以前では考えられないことなのだが、その分成長を実感した。
- ・私は自分を変えるきっかけとして、コミュニケーション能力をつけることを1番の目標に活動してきた。多くの人と関わり、以前よりも楽しんで人と関われるようになった。
- ・青森の魅力を再確認でき、青森の方々の思いやりの心も見ることができた。また、自己のコミュニケーション能力が高まった。
- ・沢山の人と関わることができ、価値観が広がり、新たな視点で周りを見ることができるようになった。地域のお宝について考えるなかで、知らなかったたくさんの青森の魅力を知り、より青森のことが好きになった。2年間楽しかった。
- ・この活動は、去年から行っていたもので今年2年目となった。今年は、新しく1年生のメンバーも増えて活動の幅や種類も増えてとても学ぶことが多く、特に大人の方達と関わることが多かったので、学校では身につけられない力が着いたと思う。

## &lt;大人の委員&gt;

- ・県内にはこんなに熱い高校生がいるんだ、ということを知ることができた。皆が一生懸命に試行錯誤しながら活動をしている様子に、私も力づけられた。
- ・都度、高校生たちの成長を垣間見て嬉しく感じていた。この経験や繋がりをこれからの人生に活かして欲しい。
- ・課題に取り組む高校生の姿には目を見張るものがある。物怖じせず、常に前進する姿に青森の明るい未来を感じた。
- ・こちらで準備したのは素材だけ。そこから何を学ぶかは自分で見つける、そんな目論見に見事に応えてくれた、頼もしい高校生達だった。逆に、彼らからたくさんの学びをもらった。
- ・今回、限られた時間・機材での映像制作だったが、「高校生ならでは」の視点で大人が思いつかない作品になり関心と驚きの連続だった。
- ・今回、高校生たちと接してみて、最初は「正解」を探している感じがヒシヒシと伝わってきた。1年通した活動をして、今回の各地域の発表会を見て本人たちはどう感じただろうか。私は「本人たちの力だけで作った作品」は青森市だけだったように感じる。「今」の自分たちの力で何ができるのかを最大限やってみた成果だと思う。「正解」ではなく、「自分たちが考えた成果」とそれを踏まえた「次」をこれからも考えていって欲しいと思う。

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

青森市実行委員会

男の3分間クッキング 青森魅力発信編

プレゼン大会  
プレゼン技能特別賞

① 青森市チャレンジチームの目的

青森の魅力を発信する活動にチャレンジしながら、自己のコミュニケーションやプレゼンテーションの力を磨き、創造力、交渉力、開発力、発信力などを高める。

② まとめとして

<1期生>

- ・青森産の様々な名産や隠れた名産を発見することができた
- ・青森で働いている人たちの温かみを感じ取ることができた
- ・各班で新しいものを開発することで開発力が身についた
- ・青森について調べることで青森の良さをたくさん知る事ができた
- ・様々な幅広い年齢の方たちと交流することでコミュニケーション能力が高まった
- ・青森のことをPRするためにたくさんのかげの努力があること知ることができた

プレゼンでは、青森市実行委員会の活動の目的、そして得たものを自分達の言葉で発表した。



彼らは青森の魅力を発信すべく一生に一度の「負けられない戦い」として“男の3分間クッキング”に臨む。



にんにく、イカ、ホタテと県産食材を次々と投入し、青森米は“青天の霹靂”だけでないとさりげなくアピール。



香り立つ海鮮パエリアが完成！

是非、本州最北端！この青森におこしく下さい！

多くを語らず視覚に訴えた魅力発信だった。

## No.02「地域のお宝物語」 平内町実行委員会

1

### 活動のテーマ・方針

平内町の好きなモノ・コトに自分たちで手を加えると、さらに愛着が湧く素敵なモノ・コトになり、人に伝えたいという気持ちも生まれる。

「すき+ ♪ =すてき」 自分たちが「すき」「すてき」だと思う地域のお宝を「案内する」、「発信する」が平内町実行委員会の活動テーマ・方針である。



H30 ワークショップ②（体験活動）の様子

2

### 団体の概要（委員の所属等）

#### 高校生の委員

県立青森東高等学校平内校舎 4名

#### 大人の委員

平内町社会教育委員 荒内清藏（委員長）  
白鳥ガイド隊 小形郁子  
平内町水産商工観光課 主査 太田正美  
平内町地域おこし協力隊 諏訪奈津子  
平内町教育委員会 主任 辻村歩未  
平内町教育委員会（事務局）

3

### 取組内容（事業実施の流れ）

#### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

H30. 6.30 第1回実行委員会 場所：町立山村開発センター

- ・委員自己紹介
- ・活動方針について
- ・平内町のお宝について（グループ協議）

H30. 7.31 体験活動① 場所：浅所海岸

- ・浅所海岸干潟散策
- ・マンホールTシャツづくり

H30. 8. 6 研修会① 場所：町内一円

- ・史跡、名勝、記念物、施設めぐり

H30. 8.19 第2回実行委員会 場所：町立図書館ほか

- ・プレ発表会準備

H30. 9. 9 研修会② 場所：町立山村開発センター

- ・町の文化財について学ぶ

H30.11.10 研修会③ 場所：町立山村開発センター

- ・話し方コミュニケーションについて学ぶ



H30 第1回実行委員会の様子

- H30.12. 9 「地域のお宝物語」研修・交流会（東青・下北地区） 場所：県立図書館
- H30.12.22 体験活動② 場所：浅所海岸周辺  
・野鳥観察、ホタテ貝ほやしき体験
- H31. 1.10 第3回実行委員会  
場所：町立山村開発センター  
・プレ発表会準備
- H31. 1.24 まとめ 場所：町立山村開発センター  
・プレ発表会最終確認
- H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会  
場所：県総合社会教育センター 8名参加



R1 ワークショップ②（体験活動）の様子

### 【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践

- R1. 6.28 第1回実行委員会 場所：町立山村開発センター  
・委員自己紹介  
・今年度の活動内容について  
・白鳥と樺の信仰と伝説について学ぶ
- R1. 7.19 ワークショップ①（研修会）  
場所：町立山村開発センター、ギフトハウスにいおか  
・ガイドマップづくり（現地取材）
- R1. 8. 2 ワークショップ②（体験活動） 場所：浅所海岸周辺  
・浅所海岸干潟散策  
・下水処理場見学、マンホールTシャツ、トートバッグづくり
- R1. 9. 7 第2回実行委員会 場所：町立山村開発センター  
・ガイドマップづくり  
・視察研修準備
- R1. 9.14 ワークショップ③（研修会） 場所：八戸市  
・史跡根城の広場及び八戸市博物館見学  
・ボランティアガイドとの意見交換
- R1.11.29 ワークショップ④（研修会） 場所：町立山村開発センター  
・白鳥ガイド講習会受講  
・ガイドマップづくり、プレゼン大会準備
- R2. 1.18 ワークショップ⑤（体験活動） 場所：浅所海岸周辺  
・白鳥ガイド体験  
・プレゼン大会準備
- R2. 1.30 ワークショップ⑥（研修会） 場所：町立山村開発センター  
・プレゼン大会発表練習
- R2. 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
場所：アピオあおもり（県男女共同参画センター）8名参加
- R2. 2.14 ワークショップ⑥（まとめ） 場所：町立山村開発センター  
・2年目の振り返り  
・委員の感想

## 4

## 成果と課題

## 【成果】

- ・世代間の交流が生まれた。
- ・地域のお宝を調べていくうちに、他のことも知りたいという探究心が湧いた。
- ・専門知識を学ぶことができ、様々な体験をしたことで、自分たちの町のことを自信をもって話すことができるようになった。
- ・ガイド体験で、これまで知って得た知識などを活かして、観光客に案内ができた。
- ・人との触れ合いが多くなり、人とのつながりが大事だと感じることができた。

## 【課題】

- ・自分たちでやるべきことの役割分担ができていなかった。
- ・2年間の取り組みを通じて見つけた、作ったお宝をどうやって伝えていくか。
- ・情報の発信の仕方、人に伝える方法。



R1 ワークショップ①(研修会)で出されたアイデア

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・これまで関わってくれた講師や多くの人の協力、アドバイス。
- ・様々な体験、経験。
- ・委員の仲の良さ、団結力。
- ・自分たちのこだわりを大切に活動。

## 苦勞したこと

- ・お宝がありすぎてどのように絞り込んで整理し、形にするか。
- ・どのようにすれば自分たちの思いが伝わるのか。
- ・ガイド体験等で相手に分かりやすくまた、魅力的に伝えること。
- ・ガイドマップの制作(文章や写真、レイアウトなど)。

## 6

## 委員の感想

- ・しっかり最後までやり通せた。
- ・2年間を通じて様々なことを学ぶことができ、ふるさと愛がさらに深まった。
- ・人と人とのつながり、かかわりが大切だと感じたので、大事にしていきたい。
- ・高校生たちは、ひと回りもふた回りも大きく成長したと感じる。
- ・自分の町のよさを再発見できた。



R2 プレゼン大会での発表の様子

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

平内町実行委員会

平内町とハクチョウとおばちゃんと。

プレゼン大会  
地域愛特別賞



**平内町の町章**  
平内町の町章は、「平」と「ハクチョウ」を組み合わせて、「ツバキの花」で囲んだもので作られています。

P-02

平内町のシンボル




**国指定 天然記念物 ツバキ自生北限地帯**  
夏泊半島・楡山は、海岸に面した緑地帯を中心に1万数千本のツバキ(ツ)におおわれ、4月下旬から6月上旬にかけて丘陵一帯に紅色の花を咲かせます。  
ここで楡山を分布の北限としていることから『ツバキ自生北限地帯』として国の天然記念物に指定されています。  
楡山沿いに連続が広がっている楡山海岸は、平成8年「日本の清白道」に認定されている美しい海岸です。

指定：大正11年10月  
理由：本郡におけるツバキ自生北限地帯で純林をなす。また、葉集産樹と混在している。

P-03

天然記念物「ツバキ自生北限地帯」




**国指定 特別天然記念物 小湊のハクチョウ およびその渡来地**  
浅所海岸は、夏泊半島の東側付け根にある浅所の海岸で東北でも有数の広さを誇る干潟です。  
古くから白鳥渡来地として知られ、毎年10月中旬道シベリア方面より渡来し、3月下旬頃まで白鳥とのふれあいが楽しめます。遊橋から松島・小松島へと遊れ、景勝地としても賑わっています。  
海岸一帯(夏泊半島一帯に亘り)は「小湊のハクチョウおよびその渡来地」として特別天然記念物にも指定されています。

指定：昭和27年3月29日  
理由：世界的に珍しい群生地帯で、学術上極めて有益。また、交通や周辺の環境が他の渡来地よりはるかによい。

P-04

特別天然記念物「小湊のハクチョウおよびその渡来地」



**白鳥伝説**  
平内町には白鳥に関わる伝説や民話が多く語り継がれています。

- 白鳥伝説
- 産土様民話
- 富孫記
- 楡山心中

**産土様 (おぼすなさま) 民話**  
産土様は、その土地の大事な守り神、浅所村の庄屋の娘おぼと、遊橋のせがれおぼととの産土様をめぐる悲しい恋の物語である。

P-05

白鳥伝説【産土様民話】



**ホタテ養殖発祥の地 水揚高日本一**  
平内町はホタテ養殖発祥の地。養殖ホタテ水揚げ量日本一の生産量を誇っています。  
長閑な産ホタテの漁日は本州最北の風し小寒さに誘われ、身が引き締まり、旨みが多くどんな調理方法でも美味しく、特に現地ではおぼる新鮮な刺身や、日焼きは観光客を感動させます。  
ホタテを使ったお土産や加工品も絶品です。

P-07

ホタテ養殖発祥の地 水揚高日本一



**ひらないガイドマップ ギフトハウスにいおか**  
平内町を「見て」「知って」「知って」得た情報を集めた、高校生のおすすめスポットの中でもいちおしのお店を紹介。  
小・中・高校生の社交場！  
種類が豊富でオリジナルティに富むメニューはどれもみな美味しく、遊ぶのが大変です。

**ギフトハウス いいおか**  
小湊商店街にたまたま、おばちゃんこと田嶋裕子さんがおぼるからと見られるお店。平内町にあるお店の中でもおぼるが一番好きなお店です。

P-08

ひらないガイドマップ いいおかのおばちゃん

## No.03 「地域のお宝物語」 五所川原市実行委員会

1

### 活動のテーマ・方針

- ・ 地域資源を広く学び、地域の良さを再認識する取組を推進
- ・ 社会全体で子どもたちを育み、地域の魅力を発信できる人財を育成
- ・ 高校生等若者世代を巻き込んだ地域活動を推進



H30 ワークショップ②（体験活動）の様子

2

### 団体の概要（委員の所属等）

#### 高校生の委員

五所川原商業高等学校 6名

#### 大人の委員

特定非営利活動法人  
津軽半島観光アテンダント推進協議会  
（委員長兼事務局）  
五所川原市教育委員会  
津軽鉄道株式会社

3

### 取組内容（事業実施の流れ）

#### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

H30. 7.13 第1回実行委員会 場所：五所川原市中央公民館

- ・ 委員自己紹介
- ・ 「地域のお宝物語」事業概要について
- ・ 今後の活動について

H30.11. 4 「地域のお宝物語」研修・交流会（西北・中南地区）場所：五所川原市民学習情報センター

H30.11. 8 平成30年度青森県産業教育振興会西北地区競技会 高校生研究発表会

H30.11.30 ワークショップ①（勉強会）

場所：五所川原商業高等学校

- ・ 研修会に向けての事前勉強会

H30.12. 8 ワークショップ②（体験活動）

場所：津軽鉄道沿線（五所川原市金木町）

- ・ 津軽鉄道沿線の魅力発掘モニターツアー



H30 第1回実行委員会の様子

- H30.12.22 ワークショップ③（研修会）  
場所：西北地域の津軽半島（五所川原市～鱒ヶ沢町）  
・津軽半島の魅力発見バスツアー
- H31. 1.17 ワークショップ④（活動のまとめ） 場所：五所川原商業高等学校  
・中間発表会にむけて  
・活動の振り返り
- H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会  
場所：県総合社会教育センター 9名参加
- 【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践
- R 1 . 6.24 第1回実行委員会 場所：五所川原商業高等学校  
・委員自己紹介  
・今後の活動内容について
- R 1 . 7. 6 ワークショップ①（研修会）  
場所：津軽鉄道 津軽中里駅  
・津軽鉄道乗車体験で魅力を知る  
・津軽伝統金多豆蔵人形芝居観覧  
・地域イベントの体験
- R 1 . 9. 8 ワークショップ②（体験活動）  
場所：いずみ小学校体育館「飯詰フェスタ」  
・小学生が集うイベントで実際に小学生と接し、教える体験
- R 1 .10.31 ワークショップ③（研修会） 場所：五所川原商業高等学校
- R 1 .11. 3 ワークショップ④（体験活動） 場所：津軽鉄道 津軽中里駅  
・金多豆蔵人形絵付け体験（イベントで使用）  
・まとめで開催するイベント告知（YouTubeで配信）
- R 1 .11.23 ワークショップ⑤（活動のまとめに向けて） 場所：津軽鉄道列車内及び津軽中里駅  
・津軽鉄道の列車内及び津軽中里駅内金多豆蔵人形芝居劇場を活用したイベントの予定  
演習
- R 1 .11.30 ワークショップ⑥（活動のまとめ） 場所：津軽鉄道列車内及び津軽中里駅  
・次世代である小学生を対象とした地域のお宝を伝えるイベントを開催  
・地域資源である津軽鉄道や津軽伝統金多豆蔵人形芝居を活用し、オリジナルの物語を  
手づくりの人形や紙芝居で披露
- R 2 . 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
場所：アピオあおもり（県男女共同参画センター） 8名参加



R 1 ワークショップ④（体験活動）の様子

## 4

## 成果と課題

地域のお宝を探すため、1年目は様々な観光名所を訪問。たくさんある名所の中から、他の地域に無くて五所川原市周辺にしかないものに絞り込んだ。

また、中間発表会で今後の目標として掲げていた

- ①地域の魅力を地域の方々と共に発信
- ②地域イベントに参加、それに加え今年度は、
- ③次世代に地域のお宝を伝える

という全てを実践できたことは、高校生にとって達成感と共に自信に繋がったように思う。特に、2年目は、地域の魅力を発信できる高校生を育成というこの事業の目的に沿った活動ができた。

課題は打合せ等の時間の調整が難しく、プレゼン大会までの資料作りなどの時間が不足していた点である。



R1 ワークショップ①(研修会)で  
出されたアイデア

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・アドバイスはしたが、基本的に高校生の主体性に任せた。
- ・チームワークが良かった。
- ・地域のイベントに参加、体験することで地域の魅力をより感じる事ができた。

## 苦勞したこと

- ・豊富にある地域資源の中から何を選抜していくか。
- ・打ち合わせをするにあたっての時間調整が難しかった。

## 6

## 委員の感想

高校生とともに改めて地域の魅力を考え、再発見できた。

また、小学生を対象とした地域の魅力を伝えるイベントを開催したことで、小学生や高校生は何に興味を持ち、面白みを感じるのかを知ることができた。とてもいい経験になった。

また、たくさんの地域の方にご協力をいただき、つながりができたことは大きな財産になったと思う。(委員長)



R2 プレゼン大会での発表の様子

7

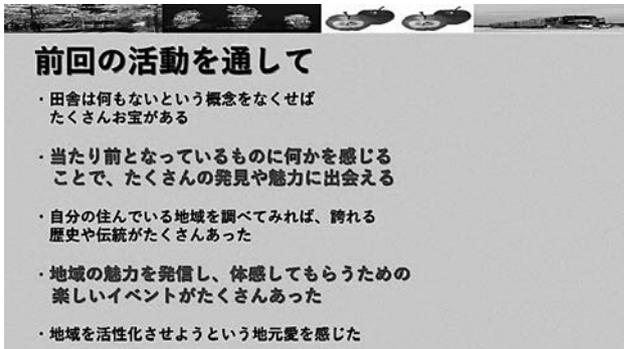
プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

**五所川原市実行委員会** **プレゼン大会**  
**プレゼン技能特別賞**

**おいでよ！春夏秋冬ごしよがわら**



発表タイトル



前年度を振り返って



今年度の方向性を決定！



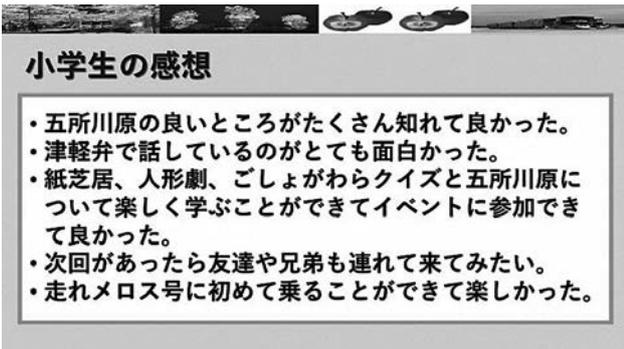
イベント開催をPR



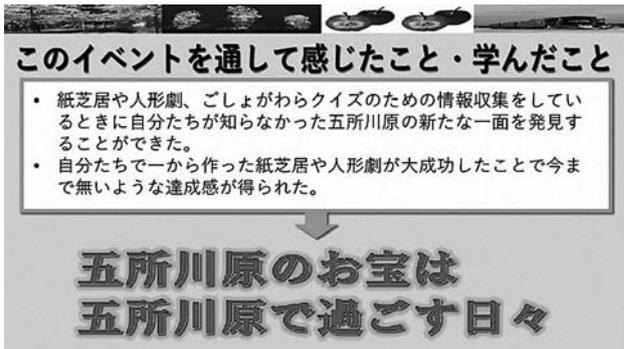
津軽鉄道列車内での紙芝居披露



人形劇披露



イベントに参加した小学生の感想



物語のまとめ

## No.04 「地域のお宝物語」 つがる市実行委員会

1

### 活動のテーマ・方針

地域資源を広く学び、地域の良さを再認識するため、社会全体で子どもたちを育み、地域の魅力を発信できる人財を育成する。高校生等、若者世代を巻き込んだ地域活動を推進し、映像等の協働作業を通じて社会参画を体験させる。



R1 映像ワークショップ②(映像制作)の様子

2

### 団体の概要(委員の所属等)

#### 高校生の委員

県立木造高等学校 6名

#### 大人の委員

「つがる市フィルムコミッション」6名  
坂本造花店 社長 坂本憲彦(実行委員長)  
仕出しの鈴木 専務 鈴木大樹 ほか4名  
川嶋新聞店 代表 川嶋大史(事務局)

3

### 取組内容(事業実施の流れ)

#### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

H30. 7. 3 第1回実行委員会 場所：つがる市商工会  
・委員自己紹介  
・活動方針について  
・つがる市のお宝について(グループ協議)

H30. 7.17 ワークショップ①(勉強会) 場所：つがる市「松の館」「カルコ」  
・つがる市の歴史(縄文文化)を学ぶ

H30. 8.18 ワークショップ②(体験活動)  
場所：つがる市内・館岡地区  
・「田小屋野貝塚ウォーク」参加



H30 ワークショップ②の様子

H30.10.14 ワークショップ③（映像研修会） 場所：つがる市「デイジーランド」

H30.11. 4 「地域のお宝物語」研修・交流会（西北・中南地区）

場所：五所川原市民学習情報センター

H31. 1.25 第2回実行委員会 場所：つがる市「デイジーランド」

H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会

場所：県総合社会教育センター 6名参加

H31. 2.25 ワークショップ⑦（まとめ） 場所：つがる市「デイジーランド」

- ・ 1年目の振り返り
- ・ 2年目の取組に向けて



H30 ワークショップ③（映像研修会）の様子

### 【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践

R 1 . 7. 2 映像ワークショップ① 場所：県立木造高等学校

- ・ 今年度の活動内容（映像制作）について

R 1 . 8.23~25

映像ワークショップ②（映像制作） 場所：つがる市内（馬市まつり会場内）

R 1 .11.11 第1回実行委員会 場所：つがる市「デイジーランド」

- ・ 撮影映像の上映と編集の確認について

R 2 . 1.15 第2回実行委員会 場所：つがる市「デイジーランド」

- ・ 完成映像の確認と発表の仕方について

R 2 . 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会

場所：アピオあおもり（県男女共同参画センター） 9名参加

## 4

## 成果と課題

つがる市にゆかりのあるプロの千村利光監督から指導を受けたものの、映像制作の経験がない高校生と大人の委員が協同作業をして作品を完成させたことはとても大きな財産だ。苦しみながらも作品を撮って行く過程が高校生の成長ドラマのよう。その無我夢中だった活動を高校生が客観的に振り返り、今後はどう生かせるか。この事業の面白さと難しさだ。



R 2 第2回実行委員会の様子

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・高校生がプロの映画監督や大人の委員と一緒に「協働作業」ができたこと。
- ・「地域のお宝」を探す過程で、地域の魅力を知ることができたこと。
- ・高校生が自分たちの脚本・演出・撮影で作品を完成させたこと。
- ・やりたいこと、やれることが見つかって、各自に「自信」が芽生えたこと。

## 苦勞したこと

- ・各自の思いを「言葉や絵」にして伝えることがなかなかできなかったこと。
- ・イメージした映像を「どう撮るのか？」がよくわからなかったこと。
- ・「地域のお宝」「地域の魅力」をしっかりと伝えられたのか、わからなかったこと。
- ・完成した映像を今後どう活用すればいいのか、わからなかったこと。

## 6

## 委員の感想

- ・高校生が自分の言葉で自分の思いを表現できるようになり、頼もしく思えた。
- ・映像制作の面白さが伝えられてよかった。
- ・高校生の地域への目線がわかり、おもしろかった。
- ・一緒に活動できて楽しかった。
- ・不安だらけだったが、いい経験ができた。



R 2 プレゼン大会での発表の様子

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（映画場面抜粋）

つがる市実行委員会

僕らの初恋物語「馬ねぶたに捧げた夏」

プレゼン大会  
ストーリー特別賞



「馬市まつり」に参加する馬ねぶたを制作中。



やっとの思いで完成した。



馬パレードも無事に終わった。



いよいよ、告白するのかな？



あのさ…。



じゃ、行くね。



…。



馬ねぶたが昇天して行く。

## No.05 「地域のお宝物語」 黒石市実行委員会

1

### 活動のテーマ・方針

高校生等の世代を巻き込んだ地域活動を行うことで、地域資源を広く学び、地域の伝統文化にふれあい、地域の魅力を発信できる人財育成を行う。また、地域伝統芸能を基に歴史的資産を巡る地域事業を体験することで、思い出に残る活動となる。



R 1 映像ワークショップ②(映像制作)の様子

2

### 団体の概要(委員の所属等)

#### 高校生の委員

県立黒石高等学校 3名  
県立黒石商業高等学校 7名

#### 大人の委員

上十川獅子踊保存会(委員長)  
黒石市教育委員会  
上十川地区振興協議会「上十川公民館」(事務局)

3

### 取組内容(事業実施の流れ)

#### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

H30. 7.10 第1回実行委員会 場所：黒石市立上十川公民館

- ・委員自己紹介
- ・活動方針について
- ・黒石市上十川地域のお宝について

H30. 8.10 ワークショップ①(勉強会)

場所：黒石市立上十川公民館

- ・黒石市上十川地域の歴史と文化について学ぶ

H30. 8.14 ワークショップ②(体験活動)

場所：黒石市上十川地域内

- ・上十川獅子踊保存会町内巡回演舞活動の体験

H30. 9.23 ワークショップ③(体験学習) 場所：平川市猿賀神社

- ・県下獅子踊大会の見学



H30 第1回実行委員会の様子

- H30. 9.24 ワークショップ④(体験学習) 場所：黒石市上十川地域内  
・上十川獅子踊保存会獅子納め体験
- H30.11. 4 「地域のお宝物語」研修・交流会(西北・中南地区)  
場所：五所川原市民学習情報センター
- H30.12.28 ワークショップ⑤(まとめ) 場所：黒石市立上十川公民館  
・中間発表会の資料作成等
- H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会  
場所：県総合社会教育センター 7名参加
- H31. 2. 9 第2回実行委員会 場所：黒石市立上十川公民館  
・1年目の振り返り  
・2年目の取組に向けて

#### 【平成31年(令和元年)度】「地域のお宝物語」の実践

- R 1 . 5.17 第1回実行委員会ワークショップ①(勉強会) 場所：黒石市立上十川公民館  
・委員自己紹介  
・活動方針について  
・黒石市上十川地域の史跡群について
- R 1 . 6. 9 ワークショップ②(体験活動)  
場所：黒石市上十川地域内  
・上十川地区史跡ピクニックガイド活動
- R 1 . 8.14 ワークショップ③(体験活動)  
場所：黒石市上十川地域内  
・上十川獅子踊保存会町内巡回演舞活動の体験
- R 1 . 9.14 ワークショップ④(体験学習) 場所：平川市猿賀神社  
・県下獅子踊大会の見学
- R 1 .12.27 ワークショップ⑤(まとめ) 場所：黒石市立上十川公民館  
・プレゼン大会の資料作成等
- R 2 . 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
場所：アピオあおもり(県男女共同参画センター) 9名参加
- R 2 . 2. 8 第2回実行委員会 場所：黒石市立上十川公民館  
・2年目の振り返り



R 1 ワークショップ②(体験活動)の様子

## 4

## 成果と課題

この活動を通して、高校生委員が地域の歴史文化にふれあいながら、地域伝統芸能の歴史などの多くの学びを体験を通して得ることができた。

また、地域住民と活動を共にすることで、地域に若い考えが芽生え、地域活性化の活力になったと考える。学校統廃合により、地域伝統芸能子供組の活動も事業の啓発普及もあり、取組の兆しが見られた。この、伝統的資産を受け継ぐ体制の再構築が今後の課題といえる。



R 1 ワークショップ①(研修会)

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・地域の伝統文化及び歴史的資産の情報の多さ
- ・地域で作成している歴集等の活動できる資料の多さ
- ・地域住民が一体となって守り続ける姿勢や高校生委員との交流意欲の高さ

## 苦勞したこと

- ・発表資料やプレゼン資料の作成など
- ・ガイド事業の役割分担など



R 2 プレゼン大会での発表の様子

## 6

## 委員の感想

- ・黒石高校の皆さんや地域の方々と活動させてもらって多くのことを学ぶことができた。黒石市の多くの魅力を発見できてので、よかったと思う。
- ・年齢が離れている人たちとコミュニケーションをとり、一緒に活動することができた。そのおかげで、上十川の歴史について知るだけでなく、社会に出てから必要になることを学ぶことができた。
- ・県の発表会や獅子踊の見学を通じて、貴重な体験をたくさんさせていただいた。これからも、上十川の歴史を後世に残し続けてほしい。
- ・黒石市内にある史跡や歴史についてたくさんの知識を得ることができた。活動を通して、黒石市そして上十川のお宝というものが分かり、地域の方々とふれあうことができたのでよかったと思う。
- ・私たちの身近にある伝統を調べたり、実際にその場へ行き体験することができ、私たちが知らない伝統や文化を知ることができた。この経験を生かして、自分の将来につなげていくとともに、上十川の歴史を伝えていければいいなと思った。
- ・2年間「地域のお宝物語」という事業を通して

上十川地域の獅子踊というものを初めて見て、とてもすごいと思っていた。

- ・普段の生活で関わる機会がない貴重な体験ができた。上十川地区のお宝(歴史)を調べ、実際見に行き、とても感動した。
- ・普段関わる機会のない黒商生のみなさんと関わることで、上十川地区の史跡や伝統芸能を調べ、実際にその場所に行くことで、住み慣れている黒石にも、自分の知らないすてきな場所があったということを知ることができ、とても楽しかった。発表も自分たちのやってきたことをしっかり言葉にすることができ、1年以上の期間を通して、貴重な体験をすることができた。
- ・自分の住んでいる身近な場所にある伝統ある文化や場所がたくさんあることを知ることができ、改めてこの黒石という町の上十川のお宝を知るきっかけになった活動だった。
- ・上十川地域にある遺跡や神社の歴史、獅子踊りについても知ることができた。特に、史跡ピクニックでは自分たちでガイドをして、参加者に説明しながら自分自身も史跡について学ぶことができた。活動を通して、たくさん地域のお宝を発見することができたと思った。

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

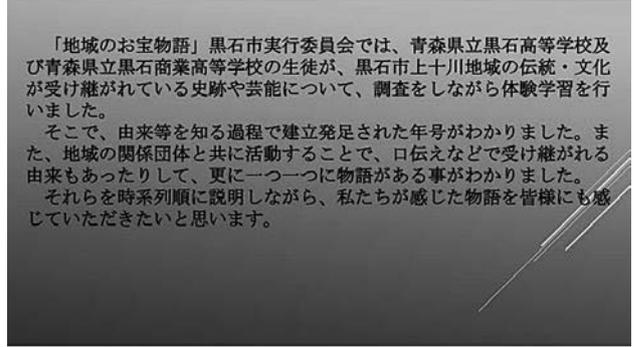
黒石市実行委員会

～上十川地域に語り継がれる伝統文化～

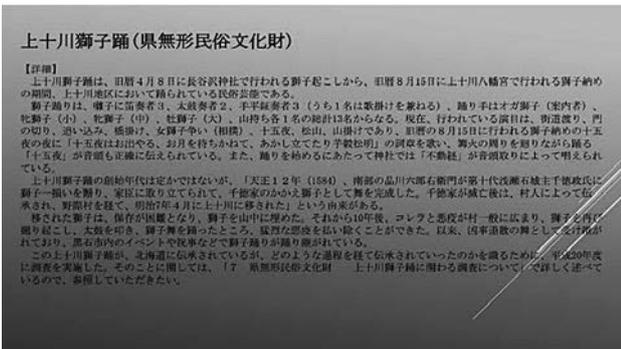
プレゼン大会  
地域愛特別賞



発表タイトル



物語の導入



上十川獅子踊について



県下獅子踊大会を見学



史跡ピクニック①



史跡ピクニック②



物語のまとめ

## No.06 「地域のお宝物語」 大鰐町実行委員会

1

### 活動のテーマ・方針

テーマ…大鰐町の「いいね！」を探そう！

方針…OH!! 鰐 元気隊キッズの卒業生たちが、町内の観光資源や歴史を再確認し、その「お宝」の価値と魅力を発見する。



H30 第1回実行委員会の様子

2

### 団体の概要（委員の所属等）

#### 高校生の委員

|            |    |
|------------|----|
| 県立弘前高等学校   | 2名 |
| 県立中央高等学校   | 1名 |
| 県立弘前南高等学校  | 1名 |
| 県立弘前工業高等学校 | 2名 |
| 県立弘前実業高等学校 | 1名 |
| 県立柏木農業高等学校 | 2名 |
| 東奥義塾高等学校   | 2名 |
| 柴田学園高等学校   | 2名 |
| 弘前東高等学校    | 1名 |

#### 大人の委員

OH!! 鰐 元気隊（委員長）  
大鰐町役場  
大鰐町教育委員会  
大鰐町社会福祉協議会  
社会福祉法人阿闍羅会  
朝日屋日景食堂  
大鰐温泉もやし増産推進委員会  
プロジェクトおおわに事業協同組合（事務局）

3

### 取組内容（事業実施の流れ）

#### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

H30. 8. 8 第1回実行委員会 場所：鰐come

- ・自己紹介
- ・今後の活動について

H30. 9.23 ワークショップ①（研修会） 場所：鰐come、大鰐町内

- ・大鰐町の歴史や魅力を再確認（まちあるき）



H30 ワークショップ①（研修会）の様子



H30 ワークショップ②（体験活動）の様子

H30.10. 5～ 7

ワークショップ②（体験活動） 場所：東京都飯田橋「あおもり北彩館」  
・販売体験及び大鰐町PR活動

H30.11. 4 「地域のお宝物語」研修・交流会（西北・中南地区）

場所：五所川原市民学習情報センター

H30.12.25 第2回実行委員会 場所：鰐come

・活動報告  
・プレ発表会について

H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会

場所：県総合社会教育センター 10名参加

H31. 2.19 第3回実行委員会 場所：鰐come

・1年目の振り返り（実施報告及び収支決算報告）  
・2年目の取組に向けて

### 【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践

R 1. 6.17 第1回実行委員会 場所：鰐come

・事業説明  
・今年度の活動内容について

R 1.10. 5～ 6

ワークショップ①（体験活動） 場所：東京都飯田橋「あおもり北彩館」

・販売体験及び大鰐町PR活動

R 1.12. 3 第2回実行委員会 場所：鰐come

・プレゼン大会について

R 1.12.25 第3回実行委員会 場所：鰐come

・プレゼン大会発表内容の検討



R 1 第1回実行委員会の様子



R 1 ワークショップ①（体験活動）の様子

R 2. 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会

場所：アピオあおもり（県男女共同参画センター）9名参加

R 2. 1.27 ワークショップ②（発表練習） 場所：鰐come

・プレゼン大会発表練習

R 2. 2.18 第4回実行委員会 場所：鰐come

・2年目の振り返り  
・委員の感想

## 4

## 成果と課題

初年度のワークショップで行った研修会や体験活動を通じて発見した「お宝」を高校生の視点で磨き上げ、自分達が町を元気にするための方法をうまくストーリーにできた。

また、ゆるキャラの活用方法で商品化したい提案もあり、よい成果があった。

高校生委員の人数と所属高校が多かったためか、全員が集まり意見交換する機会がなかったことが課題。



R 2 プレゼン大会参加メンバー

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・ 元気隊キッズ時の活動が役に立った。
- ・ 高校生が自由に考えられた。
- ・ 率先してやってくれる人がいた。
- ・ 楽しく活動できた。

## 苦勞したこと

- ・ 人数が多いので会議等の日程調整が大変だった。
- ・ 町のことをあまり知らなかった。



R 2 プレゼン大会での発表の様子

## 6

## 委員の感想

- ・ プレゼン大会の発表がとてもすばらしかった。
- ・ ゆるキャラグッズは商品化したい。
- ・ この活動はとても貴重でよい経験になった。
- ・ 大鰐を見つめ直すいい機会だった。
- ・ 今後の活動に役立つと思う。
- ・ 町内の知らなかったことを大人に教えてもらった。
- ・ 2年間の活動はとても楽しかった。



R 2 プレゼン大会での発表の様子

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

大鰐町実行委員会

プレゼン大会  
ストーリー特別賞

OH!! 鰐元気隊キッズが町を元気にする!

昨年度の活動の振り返り

- ・**プレ大会**  
大鰐町にはお土産が少ない  
ゆるキャラを有効活用するべき  
町の風景をもっとアピール
- ・**未来塾**  
他の人から見ると価値があり、  
魅力的なものがあるかも  
分かりやすく、印象に残る  
キャッチフレーズ



昨年度の活動の振り返り

元気隊キッズの活動の紹介

- ・**東京での野菜販売**  
お客さんの呼び込みや商品の説明  
街頭アンケート
- ・**大鰐町PR交流会**  
企業の方に大鰐町をPR  
出身者との交流
- ・**清掃活動**  
町内各地を年5回実施



元気隊キッズの活動の紹介

販売の様子



あおもり北彩館での販売の様子（体験活動）

PR交流会の様子



大鰐町PR交流会の様子（体験活動）

清掃活動の様子



町内清掃活動の様子

ゆるキャラ『もやっぴー』



- ・大鰐町の名産品である「大鰐温泉もやし」と温泉がモチーフ
- ・町の動物である「ワニ」が桶の中にくつろいでいるのもポイント

↓  
大鰐町には雑貨などのお土産が少ない  
もやっぴーグッズを作ってみよう!!

大鰐町のゆるキャラ「もやっぴー」の紹介

トートバッグ



スマホケース



「もやっぴー」グッズの商品案

町内のSNS映えスポットの紹介

駅前おもてなし足湯



大円寺



町内のSNS映えスポットの紹介

## No.07「地域のお宝物語」三沢市実行委員会

### 1

#### 活動のテーマ・方針

三沢市の文化であるBBQをとおり、地域の魅力を再認識し、自ら企画・実践することで自己の発信力・コミュニケーション力の向上を図る。併せて地域活動に参加し調査研究を重ねることで、BBQが生みだす効果を探り、地域への愛着と誇りを持つ高校生を育成する。



H30 ワークショップ①（勉強会）の様子

### 2

#### 団体の概要（委員の所属等）

##### 高校生の委員

県立三沢高等学校 3名  
県立三沢商業高等学校 4名

##### 大人の委員

三沢市教育委員会生涯学習課（委員長・事務局）  
三沢市教育委員会学校教育課  
三沢市政策調整課・三沢市税務課  
三沢市環境衛生課・三沢市障害福祉課  
JA おいらせ特産品開発研究会あ根っこくらぶ  
三沢市観光協会

### 3

#### 取組内容（事業実施の流れ）

##### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

- H30. 7.20 第1回実行委員会 場所：三沢市役所  
・委員自己紹介・三沢市のお宝について（グループ協議）  
・活動方針・計画について  
ワークショップ①（勉強会） 場所：三沢市立堀口中学校 調理室  
・地元食材を使った調理体験
- H30.10. 2 第2回実行委員会 場所：三沢市役所  
・実践活動についての打合せ
- H30.10.11 第3回実行委員会 場所：三沢市役所  
・プレゼンについて学ぶ  
・これまでの振り返り
- H30.11.10 「地域のお宝物語」研修・交流会（上北・三八地区）  
場所：三沢市役所
- H30.11.30 ワークショップ②（研修会）  
場所：三沢市役所  
・地元の良さをどう発信するか ～観光協会に学ぶ～
- H30.12. 1 ワークショップ③（体験活動）  
場所：小川原湖畔  
・BBQインストラクターによる講習



H30 第1回実行委員会の様子

- H31. 1.22 第4回実行委員会 場所：三沢市役所  
・活動の振り返りとプレ発表会内容について検討
- H31. 1.23 第5回実行委員会 場所：三沢市役所  
・プレ発表会発表資料の作成
- H31. 1.31 第6回実行委員会 場所：三沢市役所  
・プレゼン体験  
・展示資料作成
- H31. 2. 1 「地域のお宝物語」プレ発表会  
場所：県総合社会教育センター 10名参加
- H31. 2.15 第7回実行委員会（まとめ） 場所：三沢市役所  
・1年目の振り返り  
・2年目の取組に向けて

### 【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践

- R 1 . 5. 9 第1回実行委員会 場所：三沢市役所  
・委員自己紹介  
・今年度の活動内容について
- R 1 . 6.20 第2回実行委員会 場所：三沢市役所  
・BBQ意識調査における項目検討
- R 1 . 6.23 ワークショップ①（調査活動） 場所：三沢市内アメリカンデー会場  
・BBQに関する意識調査
- R 1 . 7.18 第3回実行委員会 場所：三沢市役所  
・アンケート結果集計作業  
・次回実践活動について
- R 1 . 8. 2 ワークショップ②（体験活動） 場所：織笠農園  
・ブルーベリー収穫体験
- R 1 . 8. 3 ワークショップ②（体験活動） 場所：小川原湖畔  
・親子BBQ講座参加
- R 1 . 9.30 第4回実行委員会 場所：三沢市役所  
・BBQジャンボリーにおける実践活動について検討
- R 1 .10. 6 ワークショップ③（活動発表・実践）  
場所：斗南藩記念観光村  
・BBQジャンボリー参加者へ活動発表  
・BBQ実践
- R 1 .11. 8 第5回実行委員会（まとめ）  
場所：三沢市役所  
・2年目の振り返り  
・委員の感想
- R 1 .12.19 第6回実行委員会  
場所：三沢市役所  
・プレゼン大会発表内容について
- R 1 .12.25 プレゼン発表資料作成  
場所：三沢市役所
- R 2 . 1.16 プレゼン発表資料作成  
場所：三沢市役所
- R 2 . 1.29 プレゼン大会発表リハーサル  
場所：三沢市役所
- R 2 . 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
場所：アピオあおもり  
(県男女共同参画センター) 13名参加



R 1 ワークショップ①（調査活動）の様子

## 4

## 成果と課題

## 【成果】

- ①地域の魅力を再確認し、反対に弱点を認識できた。
- ②活動をとおり、幅広い世代や多様な職業の大人と交流することで視野が広がり、コミュニケーション能力が向上した。
- ③2年間の活動過程の経験と、集大成となる活動発表の成功体験及び達成感の獲得。

## 【課題】

- ①2年間の活動で得た成果をどう生かしていくか、今後のストーリー形成について。
- ②短期でキャリア教育的効果を得られる事業ではないため、継続しての長期的な取組が必要である。



R 1 第3回実行員会の様子

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・多様な考えを受け入れ、楽しみを共有して取り組む。
- ・高校生の主体的な活動と大人メンバーのサポート。
- ・展示やプレゼン写真・動画など見た目へのこだわり。
- ・「体験」を重視したわかりやすい活動。

## 苦勞したこと

- ・学校行事や部活動があり、活動時間の確保が困難。
- ・野外活動メインであったため、天候に左右された。
- ・高校生の意見・意思・やる気をいかに引き出すか。
- ・メンバー間のビジョンの共有。



R 1 ワークショップ②(体験活動)の様子

## 6

## 委員の感想

- ・高校生育成事業に関わった大人も共に成長することができた。
- ・2年間の活動に関わった全ての人に感謝する気持ちが生まれた。
- ・高校生の目覚ましい成長が実感できた。
- ・地域を知り、様々な人と関わったことで、将来地元で仕事をする気持ちが生まれた。
- ・活動をとおり、新たなつながりが生まれた。



R 2 プレゼン大会での発表の様子

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

三沢市実行委員会

みさわBBQの魔法

プレゼン大会  
プレゼン技能特別賞



みさわ BBQ の魔法



三沢市のお宝ってなんだろう？



テーマは BBQ に決定！



1年目の活動計画



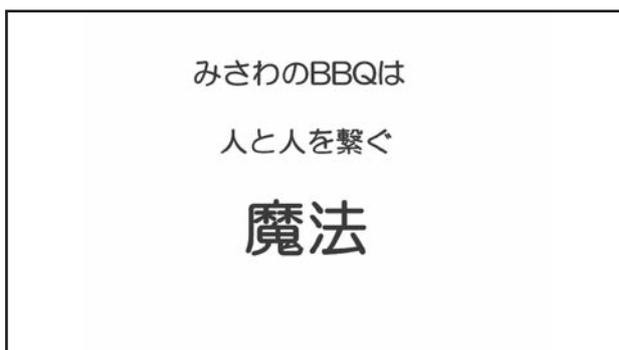
アメリカンデーでリサーチ！



BBQ ジャンボリー 2019



2年間の活動でわかった BBQ の効果



みさわの BBQ は人と人をつなぐ魔法

## No.08 「地域のお宝物語」 野辺地町実行委員会

### 1

#### 活動のテーマ・方針

野辺地町実行委員は、町内に在住する高校生、町外から野辺地町に通う高校生で構成されているため、1年目は野辺地町の魅力を「再認識」することからスタートした。2年目は、1年目に学んだお宝以外にもPRしたい魅力が多数あり、それらもお宝として紹介したい、との思いから四季と共に移り行く野辺地町の情景に合わせ、野辺地町のお宝をPRする動画を作成することとした。



R 1 野辺地町の四季をPRする写真撮影（夏）

### 2

#### 団体の概要（委員の所属等）

##### 高校生の委員

県立野辺地高等学校 6名  
八戸学院野辺地西高等学校 3名  
県立青森高等学校 1名

##### 大人の委員

ちむ野 open  
野辺地町教育委員会（委員長・事務局）

### 3

#### 取組内容（事業実施の流れ）

##### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

- H30. 7.30 第1回実行委員会 場所：野辺地町中央公民館  
・委員自己紹介  
・野辺地町のお宝について
- H30. 9.11 第2回実行委員会 場所：野辺地町中央公民館  
・今後の方針について（活動テーマについて協議）
- H30.10.14 ワークショップ（体験活動）  
場所：野辺地町内  
・野辺地町の郷土料理 調理体験  
・北前船「みちのく丸」の見学
- H30.11.10 「地域のお宝物語」研修・交流会  
（上北・三八地区）  
場所：三沢市役所
- H31. 1.12 第3回実行委員会  
場所：野辺地町中央公民館  
・プレ発表会に向けて



H30 町を知るワークショップの様子

H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会  
場所：県総合社会教育センター 11名参加

H31. 2.23 第4回実行委員会（まとめ）場所：野辺地町中央公民館  
・1年目の振り返り  
・2年目の取組に向けて

【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践

H31. 4.30 第1回実行委員会 場所：野辺地町中央公民館&愛宕公園  
・今年度の活動について  
・野辺地町の四季をPRする写真撮影（春）

R1. 8.10 ワークショップ① 場所：十符ヶ浦海水浴場  
・野辺地町の四季をPRする写真撮影（夏）

R1.10.25 第2回実行委員会 場所：野辺地町中央公民館  
・「地域のお宝物語」作成に向けた動画編集

R1.11. 9 ワークショップ② 場所：旧野村家住宅離れ 行在所  
・野辺地町の四季をPRする写真撮影（秋）

R1.12.13 第3回実行委員会 場所：野辺地町中央公民館  
・「地域のお宝物語」作成に向けた動画編集

R1.12.21 第4回実行委員会 場所：野辺地町中央公民館  
・「地域のお宝物語」作成に向けた動画編集

R2. 1. 8 ワークショップ③ 場所：国設野辺地まかど温泉スキー場  
・野辺地町の四季をPRする写真撮影（冬）

R2. 1.11 第5回実行委員会 場所：野辺地町中央公民館  
・「地域のお宝物語」作成に向けた動画編集

R2. 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
場所：アピオあおもり  
(県男女共同参画センター) 10名参加

R2. 2.15 反省会 場所：GARDEN CAFE  
・2年間の振り返り



R2 プレゼン大会参加者

## 4

## 成果と課題

2年間活動する中で、他校委員や地域の方々等普段かかわることのない人々と交流ができ、活動を通して一人一人に積極性が見られるようになった。野辺地町実行委員会としての活動は終了するが学んだことを自身の生活や活動に役立ててほしい。

また、動画以外にも撮影した四季の写真を使用したポスター、カレンダー等も作成し動画だけでは伝えきれない魅力を伝える予定にしていたが、半数の実行委員が高校3年生で受験のため活動が思うように進まず作成することができなかった。



四季をPRする写真の撮影（モデルも高校生）

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・写真・動画撮影に関して、「どこで」「何を」「どのように」の観点で、高校生がテーマや撮影方法を企画したため、高校生目線で町をPRすることができた。
- ・町内、町外に在住している高校生で構成されているため、それぞれの目線から野辺地町の魅力について考えることができた。

## 苦勞したこと

- ・四季に合わせて写真・動画撮影を行ったが、集まれる日に天気が悪い等の理由によりなかなかうまく撮影が進まなかった。



H30 第1回実行委員会

## 6

## 委員の感想

- ・ただ調べるのではなく、自分自身で体験することで改めて野辺地町の魅力に触れることができ、活動を通して新たな発見ができた。自分の町の魅力を知り、他の地域の魅力を知ることができるので、今後も活動を継続してほしい。
- ・撮影、動画づくりは初めての経験でとても楽しかった。四季それぞれで違った顔を見せてくれ、一年中楽しめる町だなと改めて感じた。
- ・活動する前は、野辺地町には何もないと思っていた。しかし、活動していくと野辺地町にたくさん魅力があると感じた。



R2 プレゼン大会の様子

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

野辺地町実行委員会

素晴らしき四季～魅力あふれる野辺地町～

プレゼン大会  
地域愛特別賞



四季それぞれの魅力を紹介した動画を作成  
(画像は表紙絵)



愛宕公園（春）  
展望台からは野辺地町を一望でき、桜も美しい。



十符ヶ浦海水浴場（夏）  
海で食べるホタテとかぶとお肉は文句なし。



野辺地町の特別観光大使「じ～の」  
野辺地町の木花鳥や特産品を身に着けている。



旧野村家住宅離れ「行在所」（秋）  
和室から紅葉を眺めながら町の銘菓を。



国設野辺地まかど温泉スキー場（冬）  
野辺地町といえばやはりスキー。

# No.09 「地域のお宝物語」 むつ市実行委員会

1

## 活動のテーマ・方針

テーマ 「大湊の魅力を伝えたい！」

方針 ・大湊について知る。

地域の人から話を聞く、地域を歩く、交流する。

・大湊の魅力を、子どもをターゲットに、絵本や動画で伝える。



R1 第1回実行委員会の様子

2

## 団体の概要（委員の所属等）

### 高校生の委員

県立大湊高等学校 10名

### 大人の委員

北の防人大湊ガイドグループ（委員長）  
青森県民カレッジまさかり学友会  
むつ市役所、首都大学東京大学院  
むつ市教育委員会（事務局）

3

## 取組内容（事業実施の流れ）

### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

- H30. 7.21 第1回実行委員会  
場所：北の防人大湊 式番館  
・委員自己紹介  
・事業内容について  
・ワークショップ等、計画について協議
- H30. 7.21 ワークショップ①（勉強会）  
場所：みどりのさきもり館、水源池公園  
・北の防人大湊エリアについて学ぶ  
(1) 概要説明  
(2) 水源池公園内を散策し、好きなモノ、おすすめしたいモノをみつけてもらう
- H30. 9. 8 ワークショップ②（研修会）  
場所：北の防人大湊 安渡館、宇田町内  
・大湊のくらしとまつり  
(1) 大湊のむかしのこと  
講師からのお話  
(2) 大湊まつり見学
- H30. 9.17 ワークショップ③（体験活動）  
場所：むつ市中央公民館、大湊地内  
・まちを眺める、歩く、探す…  
(1) グループに分かれ大湊を歩く  
(2) まとめ



H30 大湊まつりの様子



H30 プレ発表会の様子

- H30.10.20 ワークショップ④（グループワーク） 場所：北の防人大湊 式番館  
 ・ものがたりの要素をみつける  
 (1) グループごとにワークショップ③で見つけたモノ、コトをまとめる  
 (2) どんなものがたりをどんな媒体で？プレゼン大会
- H30.12. 8 第2回実行委員会 場所：北の防人大湊 式番館  
 ・中間報告 ・来年度の計画
- H30.12. 9 「地域のお宝物語」研修・交流会（東青・下北地区） 場所：県立図書館
- H30.12.15 ワークショップ⑤（グループワーク） 場所：北の防人大湊 安渡館  
 ・ものがたりの企画を構築  
 (1) ワークショップ④のプレゼンから1案（絵本・動画作成）に絞り、5つの要素について自由討議  
 (2) 出された意見を集約し、シートに沿ってものがたりの形作り
- H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会  
 場所：県総合社会教育センター 13名参加
- H31. 2.16 第3回実行委員会 場所：北の防人大湊 式番館  
 ・1年目の事業報告 ・2年目の計画について（水にちなんだ絵本と動画の作成）

### 【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践

- R 1 . 6. 8 第1回実行委員会 場所：北の防人大湊 式番館  
 ・今年度の活動内容について
- R 1 . 7.19 ワークショップ①（体験）  
 場所：北の防人大湊 式番館  
 ・絵本作成、読み聞かせの方法について学ぶ  
 (1) 絵本の種類、見やすさなどを市立図書館奉仕員から学び、本を作ってみる  
 (2) 読み聞かせの活動をしている講師からコツを学ぶ
- R 1 . 8.18 読み聞かせ体験会開催  
 場所：北の防人大湊 式番館  
 令和元年度自主企画 大湊で夏休み！  
 関連イベントとして紙芝居の読み聞かせ実施
- R 1 . 9.14 ワークショップ②（実践） 場所：北の防人大湊 式番館  
 ・動画編集のコツを学ぶ  
 (1) 講師による動画作成のポイント  
 (2) 動画編集ソフトの体験
- R 1 .12.14 第2回実行委員会 場所：北の防人大湊 式番館  
 ・中間報告  
 ・動画作成について  
 ・プレゼン大会について
- R 1 .12.21 ワークショップ③（実践）  
 場所：北の防人大湊 安渡館  
 ・プレゼンのコツを学ぶ  
 (1) プレゼンのポイントを講師から学ぶ  
 (2) グループでプレゼン実践
- R 2 . 1.13 絵本吹き替え収録 場所：北の防人大湊 式番館  
 地元小学生、実行委員のほか、地域住民も参加
- R 2 . 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
 場所：アピオあおもり（県男女共同参画センター） 15名参加
- R 2 . 2.13 県立大湊高等学校報告会 場所：県立大湊高等学校 体育館  
 高校生実行委員7名 1、2年生に事業実施報告
- R 2 . 2.22 第3回実行委員会 場所：北の防人大湊 式番館  
 ・事業報告 ・動画上映 ・その他



R 1 ワークショップ①奉仕員の話



R 2 プレゼン大会での展示

※高校生は2年目、絵本、紙芝居の作成など、ワークショップ以外の活動（8回）

## 4

## 成果と課題

1年間、地域の人たち、高校生が交流しながら町を歩き、話を聞き、色々なものを見つけ、感じ、絵本というツールで魅力をPRしようと作成した。また、絵本だけでなく紙芝居を作成してイベントで読み聞かせをしたり、動画を作成するなど、幅広く目にしてもらうことを意識しながら、高校生を中心に活動した。

予算の都合上、絵本は各学校や各施設に配付や設置ができていないが、今後増刷を検討し、高校での活用と動画作成に参加してくれた地元小学校の総合的な学習等での活用を図り、定着させていくことが課題である。



R 2 絵本吹き替え収録時の様子  
(中央は小学生)

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・短い時間でも、色々な人と話をする事。
- ・歩いて見てみる事。
- ・大人だけでなく子どもたちとも交流できたこと。
- ・今まで挑戦したことのないことに挑戦できたこと。

## 苦勞したこと

- ・進路活動の都合もあり、参加できなかったことが多かったこと。
- ・ワークショップで出たたくさんの案を、形にすることが難しかった。
- ・報告会や交流会など、知らない人たちと活動するのが大変だったこと。
- ・「地域のお宝」として何を伝えることができるのかということと、「地域のお宝」が何かというのに気づくこと。

## 6

## 委員の感想

- ・ワークショップや色々な活動で貴重な体験ができ、楽しかった。
- ・地域の魅力を知ることができたし、地域の大人と関わるよい機会となった。
- ・地域の力になれたのが嬉しかった。大人になったら地域に貢献したい。
- ・高校生たちが色々な見聞を重ね、故郷のよさを感じたことは貴重な体験だったと思うし、1つのタイトルに絞って絵本や動画を完成させ発表したのは立派だった。
- ・高校生にとっては少しでもこの活動のこと、大湊のよさを語れるようになったと思うし、県内の高校生たちの発表がとてもよかった。
- ・改めてそれぞれの地域のおもしろさを知ることができた。
- ・今回だけにとどまらず、ステップアップした、地域と向き合える高校生向け事業を継続してほしい。2年だけで終わらず、フォローしてほしい。
- ・今回のこのような活動、交流こそが「地域のお宝」と感じた。

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

むつ市実行委員会

おーちゃんとゆく！ワクワク大湊探検

プレゼン大会  
地域愛特別賞



子どもたちに親んでもらえるよう、水の妖精おーちゃんが誕生！



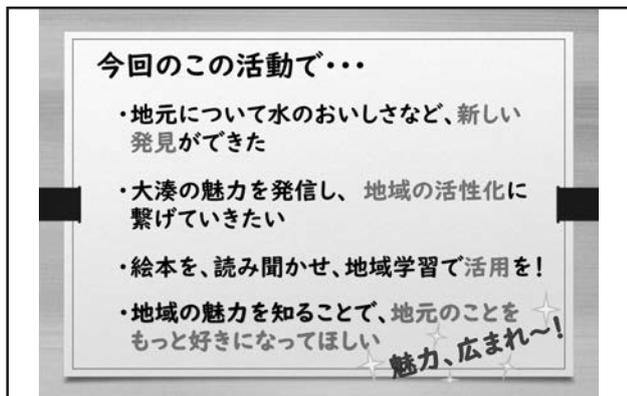
時間を作り、作成に取りかかる



紙芝居読み聞かせイベントを開催



声の吹き替えは小学生、地域住民と共に



活動を通して感じたこと



完成した絵本

# No.10「地域のお宝物語」東通村実行委員会

1

## 活動のテーマ・方針

「地域のお宝物語」東通村実行委員会は、地域資源を活用した「社会起業」という活動テーマで2年間取り組んできた。具体的には、東通村には「集う場所」がないという課題から高校生カフェを企画・運営するという方針で活動した。高校生が地域課題を発見し、解決策の提案・実践する主体的な活動内容を設定した。



R 1 第1回実行委員会の様子

2

## 団体の概要（委員の所属等）

### 高校生の委員/参加者

県立田名部高等学校 17名

### 大人の委員

総合学習塾てらこ屋（委員長）  
有限会社コスモクリエイト  
一般社団法人 tsumugu（事務局）  
りらくす mama 東通  
東通★東風塾、東通村商工会青年部  
東通村教育委員会

3

## 取組内容（事業実施の流れ）

### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

- H30. 7. 7 第1回実行委員会&ワークショップ① 場所：東通村体育館  
・委員自己紹介・活動方針について  
・東通村の良いところ・悪いところWS（グループ協議）
- H30. 8.12 ワークショップ②（研修会） 場所：東通村体育館  
・地域課題の発見から解決策の案だし①
- H30. 8.14 地域の行事参加① 場所：東通村  
・東通★東風塾主催の花火大会参加
- H30. 8.25 地域の行事参加② 場所：東通村  
・かさまいフェスタに参加
- H30. 9.16 ワークショップ③ 場所：東通村体育館  
・地域課題の発見から解決策の案だし②
- H30.10.28 ワークショップ④ 場所：東通村体育館  
・高校生カフェのコンセプト出し
- H30.11.17 ワークショップ⑤ 場所：東通村体育館  
・高校生カフェの詳細企画づくり
- H30.12. 2 ワークショップ⑥ 場所：東通村体育館  
・高校生カフェで提供したい料理のレシピ決め①
- H30.12. 9 「地域のお宝物語」研修・交流会（東青・下北地区） 場所：県立図書館

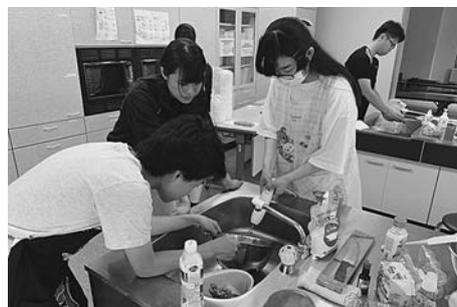


H30 ワークショップの様子

- H30.12.16 ワークショップ⑦ 場所：東通村体育館  
・高校生カフェで提供したい料理のレシピ決め②
- H30.12.23 ワークショップ⑧ 場所：東通村体育館  
・中間発表会に向けて資料作り①
- H31. 1.12 ワークショップ⑨ 場所：東通村保健福祉センター  
・高校生カフェで提供する予定の料理の試作づくり
- H31. 1.27 ワークショップ⑩ 場所：東通村体育館  
・中間発表会に向けて資料作り②
- H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会  
場所：県総合社会教育センター 2名参加
- H31. 2.24 第1回実行委員会（まとめ） 場所：むつ市かさまい館  
・1年目の振り返り、2年目の取組に向けて

### 【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践

- R 1. 5.25 ワークショップ① 場所：東通村体育館  
・今年度の活動内容について、レシピの改善①
- R 1. 6. 8 ワークショップ② 場所：東通村体育館  
・Tシャツのデザイン出し、レシピ改善②
- R 1. 6.30 第1回実行委員会 場所：東通村商工会  
・1年生メンバーの自己紹介  
・今年度の取組について
- R 1. 7.21 ワークショップ③ 場所：東通村保健福祉センター  
・改善したレシピの試食会
- R 1. 8.14 地域の行事参加①  
場所：東通村各所  
・花火大会に参加、活動のPR活動実施
- R 1. 8.25 地域の行事参加②  
場所：東通村各所  
・かさまいフェスタ参加、販売練習
- R 1. 9.14 地域の行事参加③  
場所：空き家「ぬぐだまり」  
・障子の張替え、べこもちづくり体験
- R 1.10. 5 ワークショップ④ 場所：空き家「ぬぐだまり」  
・高校生カフェの開設に向けた場所調査及び清掃ボランティア参加
- R 1.11. 9 ワークショップ⑤ 場所：空き家「ぬぐだまり」  
・高校生カフェの下準備MTG・空き家の改修のお手伝い（壁塗り）
- R 1.12.15 ワークショップ⑥ 場所：空き家「ぬぐだまり」  
・高校生サロン&カフェプレオープン
- R 2. 1.11 ワークショップ⑦ 場所：空き家「ぬぐだまり」  
・プレゼン大会に向けて資料作り
- R 2. 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
場所：アピオあおもり（県男女共同参画センター）8名参加
- R 2. 2.29 ワークショップ⑧（まとめ）  
・2年目の振り返り  
・地元住民に向けた高校生事業の取り組み発表



R 1 試食会の様子

## 4

## 成果と課題

東通村実行委員会では、高校生が自ら地域の課題を発見し、解決策を考え、実践するというプロセスで取り組んできた。「居場所がない」という課題に対して、高校生が集える場所の確保、「高校生カフェ」という解決策を提案し、プレオープンまでできたことは大きな成果であった。また、地域のお宝を「私達若者でした」という結論を出した。地域の高校生を人財育成するという観点から、自らを対比的に考え、地域のお宝を自分自身であるという結論を出したのは大きな成果であったと考える。課題としては、今後の運営方法等、継続するための体制づくりである。今後、継続していく上での議論を今年度中に決めていきたい。



R 1 高校生サロン&amp;カフェプレオープン

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・高校生が自ら事業のmissionを設定すること。
- ・大学生を講師として招いたこと→高校生との距離感が近く事業を進めやすかった。
- ・地域の大人はあくまでサポート側で、何を決めるのも高校生自身に決めてもらうこと。
- ・とにかく集まる機会を増やすこと。

## 苦勞したこと

- ・部活動に入っている高校生との日程調整。
- ・普段の集まる場所の選定（東通村は地理的に広いため）。

## 6

## 委員の感想

- ・今まで以上に、東通村のことをなにかと考えるようになった。
- ・地域の人や大学生と話す機会が少なく新鮮で、たくさんの人を巻き込んでいくことの重要性を学んだ。
- ・現状だけじゃなく、未来の地域を考える重要性を学んだ。
- ・自分自身の考えを伝えることに自信を持てるようになった。
- ・地域課題を発見して、解決するための手法を探し出す流れを知り、考える力がついた。
- ・意見交換する必要性に気づいた。



R 2 プレゼン大会での発表の様子

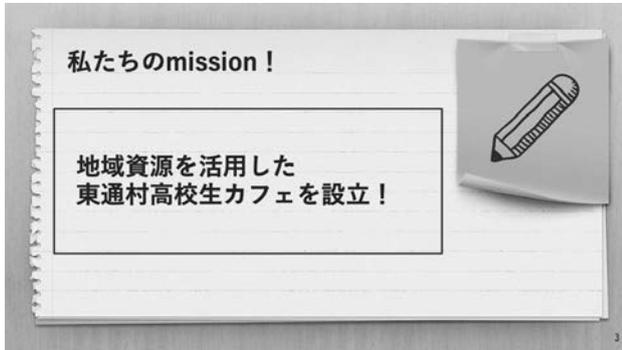
7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

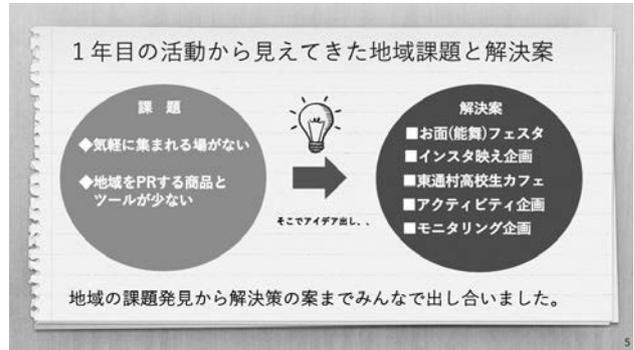
東通村実行委員会

プレゼン大会  
プレゼン技能特別賞

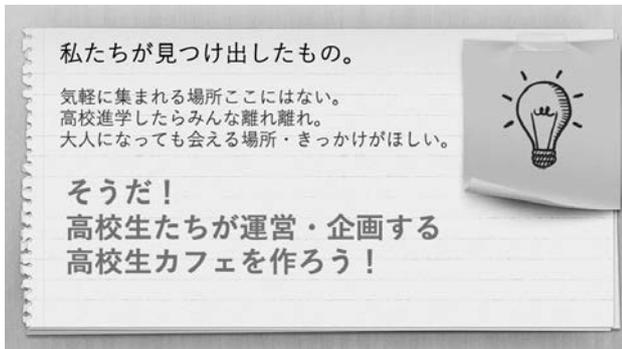
東通村の地域資源を活用した「社会起業」プロジェクト  
～高校生カフェ「Re Youth」の設立に向けた挑戦～



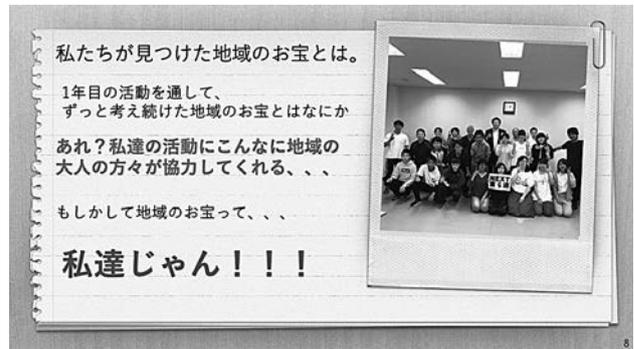
mission



東通村の課題と解決策



見つけ出した解決策



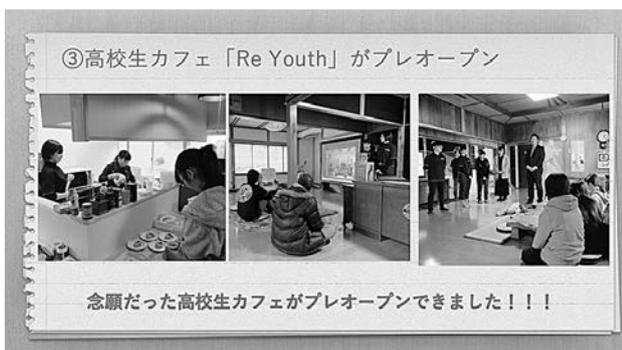
私達が地域のお宝



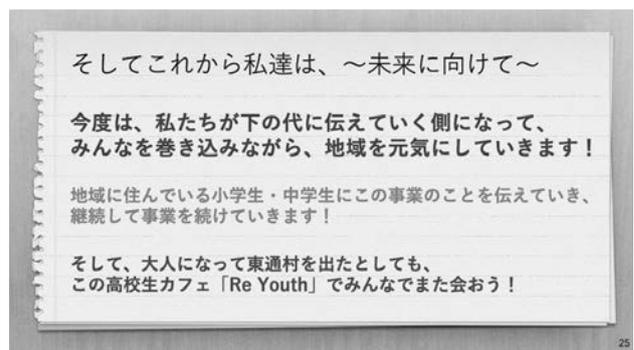
高校生カフェができるまで①



高校生カフェができるまで②



高校生カフェプレオープン



未来に向けて

# No.11 「地域のお宝物語」 三戸町実行委員会

1

## 活動のテーマ・方針

街歩きや地域の人たちとの触れ合いを通して、自分たちが知らない地域の魅力を再発見し、三戸地方に古くから伝わる“粉もの”食材の新しいレシピを考案し、レシピ本の作成を行う。



R2 プレゼン大会にて

2

## 団体の概要（委員の所属等）

### 高校生の委員

県立三戸高等学校 8名

### 大人の委員

(株)坂本印刷所（委員長）、(株)佐瀧本店  
矢村自動車整備工場(株)  
三戸町地域おこし協力隊、サンガス(株)  
太子食品工業株式会社  
マニユライフ生命、三戸町教育委員会（事務局）

3

## 取組内容（事業実施の流れ）

### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

- H30. 6.29 第1回実行委員会 場所：三戸町中央公民館  
・活動方針について
- H30. 8.11 第2回実行委員会・ワークショップ①  
場所：三戸町中央公民館  
・委員自己紹介  
・「三戸町」の魅力を語ろう（グループ協議）
- H30. 8.18 ワークショップ②  
場所：三戸町中央公民館  
・「三戸町」のお宝について（グループ協議）
- H30.10. 6 ワークショップ③（体験活動）  
場所：三戸町内  
・三戸街歩きツアー
- H30.11.10 「地域のお宝物語」研修・交流会  
（上北・三八地区）  
場所：三沢市役所



H30 ワークショップ③（三戸街歩きツアー）の様子

- H30.12.22 ワークショップ④  
場所：三戸町中央公民館  
・次年度の活動について協議
- H31. 1.12 ワークショップ⑤（まとめ）  
場所：三戸町中央公民館  
・「地域のお宝物語」プレ発表会の発表資料作成
- H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会  
場所：県総合社会教育センター 6名参加

【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践

- R 1 . 7.20 第1回実行委員会 場所：三戸町中央公民館  
・委員自己紹介  
・昨年度の活動実績について  
・今年度の活動内容について
- R 1 . 8.17 ワークショップ①（体験活動）  
場所：小山田煎餅店  
・せんべい焼き体験
- R 1 . 9. 9 ワークショップ②（体験活動）  
場所：ウッドロフトかいもり  
・餅作り体験
- R 1 .11.10 ワークショップ③  
場所：三戸町中央公民館  
・新レシピ考案会
- R 1 .12.15 ワークショップ④  
場所：アップルドーム  
・新レシピ調理、試食
- R 2 . 1.25 ワークショップ⑤（まとめ）  
場所：三戸町中央公民館  
・プレゼン大会発表資料作成
- R 2 . 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
場所：アピオあおもり（県男女共同参画センター）12名参加



R 1 ワークショップ②（餅作り体験）の様子



R1 ワークショップ④（新レシピ調理）の様子

## 4

## 成果と課題

この2年間の活動を通し、高校生たちは地域のことを学ぼうという姿勢が見受けられ、事業をスムーズに進めることができた。特に、ワークショップ等では自分たちの意見を積極的に発言し、大人の委員の方々とのコミュニケーションを図ることができた。ワークショップでは、1年目に行った“街歩き”、2年目に行った“せんべい焼き体験”と“餅づくり体験”は多くの地域の方々と触れ合うことができ、また、自分たちが知らない地域の場所や人、名産品を学ぶことができ、高校生のみならず大人の方々にとっても大きな収穫となったと言える。その中で、高校生たちは町長と話をすることができ、自分たちが考える町の将来や町長の考えなどの意見交換をできたことも、高校生にとって貴重な体験となった。

今回は、地元の“食”について新たなレシピを考案しレシピ本の作成を行ったが、ここで終わらず、多くの方々に今回の活動を知ってもらい、高校生たちが考案したレシピを町内の学校や飲食店に紹介し、また次の世代がそれぞれの視点で新たな地域の魅力を学び発信できるよう、行政としても今回とは違う形で関わりを持って支援していくことが今後の課題であると感じる。



R2 プレゼン大会の様子

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・ 仲間と協力して活動できた。
- ・ プレゼン、レシピ考案・作成をうまくできた。
- ・ 地域の特徴を生かした。
- ・ 地域の方々との活動を通して交流できた。
- ・ 今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた。

## 苦勞したこと

- ・ 大人とコミュニケーションをとること。
- ・ どんなものを使って地域のよさを伝えていくか苦勞した。
- ・ アイデアを考えること。
- ・ 調べるのが大変だった。

## 6

## 委員の感想

- ・ 貴重な体験ができてよかった。これからの経験に生かしていきたい。
- ・ 2年間取り組んできたが、自分の知らない三戸町の魅力や改善点を見つけることができたと思う。この事業がこれっきりになってしまわないように、レシピを小・中・高校の調理実習で使ったり、飲食店で提供するなどしてつなげていければと思う。
- ・ プレゼン大会で、地域がどうやったら発展するのかということや、各市町村での取り組み方や発表の仕方を学ぶことができてよかった。

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

三戸町実行委員会

郷土の食を学び、三戸町「粉もん文化」の新レシピを紹介

プレゼン大会  
ストーリー特別賞



三戸地方の食文化について



レシピ考案会の様子



レシピ①



レシピ②



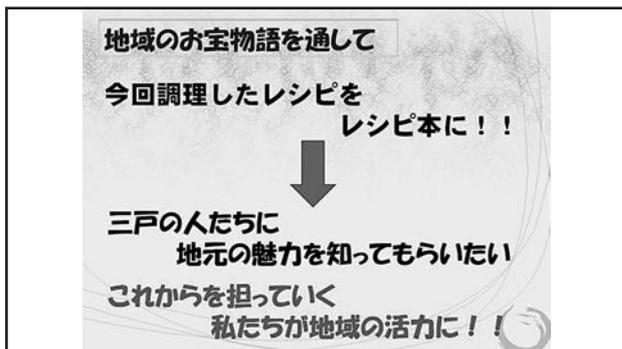
レシピ③



レシピ④



レシピ⑤



まとめ

## No.12「地域のお宝物語」 階上町実行委員会

1

### 活動のテーマ・方針

町内に眠る地域のお宝を再発見し、町を元気にすると同時に地域資源を活用し、まちおこしや魅力を発信できる人財育成をするため、1年目はワークショップ、まちあるき、イベント体験を実施。その中から見つけた宝物、町のゆるキャラ「はしかみキッズ」を使ってお宝・魅力を広めるため「はしかみいいとこ広め隊」として活動を行った。



H30 ワークショップ②（体験活動）の様子

2

### 団体の概要（委員の所属等）

#### 高校生の委員

県立八戸商業高等学校 1名  
八戸工業大学第一高等学校 1名  
八戸工業大学第二高等学校 4名

#### 大人の委員

株式会社ジェイテック（委員長）  
中城行政書士事務所  
NPO ワーカーズコープ  
八戸学院大学  
階上町教育委員会（事務局）

3

### 取組内容（事業実施の流れ）

#### 【平成30年度】「地域のお宝物語」の企画

- H30. 7.27 第1回実行委員会 場所：ハートフルプラザ・はしかみ  
・委員自己紹介  
・活動方針について  
・階上町のお宝について（グループ協議）
- H30. 8.17 第2回実行委員会 場所：階上町役場  
・ワークショッププログラム内容について
- H30. 9.28 ワークショップ①（勉強会）場所：ハートフルプラザ・はしかみ  
・はしかみ調べ隊
- H30.10. 7 ワークショップ②（体験活動）場所：階上町内  
・ぶらりはしかみ歩き隊（まちあるき）
- H30.10.19 ワークショップ③（事例紹介・研修）  
場所：ハートフルプラザ・はしかみ  
・はしかみいいとこ掘り起し隊
- H30.10.21 ワークショップ④（体験活動）  
場所：階上町わっせ交流センター  
・はしかみイベント体験し隊
- H30.11.10 「地域のお宝物語」研修・交流会  
（上北・三八地区）  
場所：三沢市役所
- H30.11.16 ワークショップ⑤（勉強会）  
場所：ハートフルプラザ・はしかみ  
・はしかみいいとこまとめ隊



H30 第1回実行委員会の様子

- H30.12. 7 ワークショップ⑥（勉強会）  
場所：ハートフルプラザ・はしかみ  
・はしかみPR準備し隊
- H30.12.26 第3回実行委員会 場所：階上町役場
- H31. 1.20 第4回実行委員会 場所：階上町役場  
・中間発表会準備、今後の予定
- H31. 1.31 第5回実行委員会 場所：階上町役場  
・中間発表会リハーサル
- H31. 2. 2 「地域のお宝物語」プレ発表会  
場所：県総合社会教育センター 11名参加
- H31. 3. 8 第6回実行委員会（まとめ）  
場所：階上町役場  
・1年目の振り返り、2年目の取組に向けて



R1 ワークショップ②（体験活動）の様子

**【平成31年（令和元年）度】「地域のお宝物語」の実践**

- H31. 4.25 第1回実行委員会 場所：階上町役場  
・今年度の活動内容について
- R1. 5.17 第2回実行委員会 場所：階上町役場  
・実践プラン内容確認
- R1. 5.23 ワークショップ①（勉強会） 場所：階上町役場  
・はしかみキッズストーリーブックレット制作①
- R1. 6.30 ワークショップ②（体験活動） 場所：ハートフルプラザ・はしかみ 調理室  
・そば粉クッキー試作開発
- R1. 7. 9 ワークショップ③（勉強会） 場所：階上町役場  
・はしかみキッズストーリーブックレット制作②
- R1. 7.29 第4回実行委員会 場所：階上町役場  
・イベント日程確認、制作担当分担、アンケート確認
- R1. 8.18 ワークショップ④（体験活動） 場所：ハートフルプラザ・はしかみ、町内  
・そば粉クッキー試作開発、お宝実地調査
- R1. 8.22 第5回実行委員会（イベント準備） 場所：階上町役場
- R1. 8.25 ワークショップ⑤（体験活動） 場所：階上町赤保内集会所周辺  
・かでで夏祭りでの企画商品の試食・紹介
- R1. 9.27 第6回実行委員会（イベント準備） 場所：階上町役場
- R1. 9.29 ワークショップ⑥（体験活動） 場所：八戸市内  
・はちのへほコテンでの企画商品の試食・配布・アンケート
- R1.12. 8 第7回実行委員会（発表リハーサル） 場所：階上町役場
- R1.12.22 ワークショップ⑦（実践活動） 場所：八戸学院大学  
・マイプロジェクト青森県プレsummit 参加
- R2. 1.31 第8回実行委員会 場所：階上町役場  
・プレゼン大会リハーサル
- R2. 2. 1 「地域のお宝物語」プレゼン大会  
場所：アピオあおもり（県男女共同参画センター）8名参加
- R2. 2.15 ワークショップ⑧（まとめ）  
・2年目の振り返り、委員の感想

## 4

## 成果と課題

2年間の活動を通して、高校生たちが自分の住んでいる地域の資源を見つめなおし、関わりが少なかった地域の大人たちとも交流したことで、新たなアイデアが生まれ町の資源を広く発信していくコンテンツを作りあげることができた。しかし、高校生は3年間で卒業し、一時的でも地域を離れる可能性がある。今後は、後輩と一緒に活動した社会人がそれを引き継ぎ継続していける形作りをすること、また、卒業したメンバーと一緒に活動できる仕組みや居場所づくりが必要である。同時に今後の活動に必要な財源確保の検討が必要である。



R1 ワークショップ①(研修会)で出されたアイデア

## 5

## 活動を振り返って

## 成功のポイント

- ・町を改めて知ることができたと同時に、県内外の人にも広めることができた。
- ・この活動のおかげで、階上のことをより多くの人に知ってもらえたこと。
- ・ブックレットの作成。絵、写真、文字を使ったことで、とても見やすく作ることができ、階上を初めて見た人でも分かりやすくすることができた。
- ・メンバー全員が町に眠る魅力的な資源(宝物)を改めて知ることができた。

## 苦勞したこと

- ・やりたいこと(案)が多すぎて絞るのが大変だった。
- ・どうすれば町外の人に伝わりやすいのか考えること。
- ・ブックレットの作成。見やすさはよかったが、どの年代を対象にしてどのような配置がいいのか決めること。

## 6

## 委員の感想

- ・町の隠れた魅力を知ることができ、階上のことがもっと好きになった。活動を通して、言葉使いや大人との関わり方を知りいい経験になった。
- ・2年間の活動を通して、階上の魅力についてもっと深く知ることができた。他の地域の事業や色々な発表会で、他の取組をたくさん知れてとても参考になった。同年代の子が、たくさん地域に貢献したいという気持ちがあって、すごくいいなと思った。
- ・町外の階上について知らない人に対して、どう伝えればいいのか考えながら活動できた。そして活動を通して階上について新しく知ったことも増え、活動を始めた頃よりもたくさんの人に階上を知ってもらえてよかった。
- ・何気なく目にしていた地域の風景に、過去から現在までの膨大な情報=お宝が詰まっていると感じた。



R2 プレゼン大会での発表の様子

- ・活動に参加して町に住む若者が、階上の魅力を知った上で、進学や就職で県外や外国へ出た時に、自分の住んでいた町を伝えられることが嬉しかった。
- ・学生と共に地元愛を深めることができたすばらしい活動だった。

7

プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」より（抜粋）

階上町実行委員会

プレゼン大会  
ストーリー特別賞

はしかみキッズではしかみいいところ広め隊！

**活動テーマ**

階上町のゆるキャラ  
「はしかみキッズ」を  
使ってまちのいいところ  
を広めたい！！

活動テーマ

**話し合いの結果・・・**

- ① 情報発信用Instagramのアカウント作成
- ② はしかみキッズ（つつじ姫）とコラボした階上早生のそば粉入りクッキー作成
- ③ はしかみキッズ（つつじ姫）とコラボしたお宝物語ブックレット作成
- ④ PRのためイベントに参加
- ⑤ 階上クイズ

話し合いで決まったアイデア

**② はしかみキッズ(つつじ姫)とコラボしたそば粉入クッキー作成**

クッキーづくり      試行錯誤した後

そば粉入クッキー作成

話し合い      絵コンテ作成

つつじ姫物語ブックレット作成

完成した階上早生そば粉入クッキー

完成した階上早生そば粉入クッキー

完成① つつじ姫物語

完成したつつじ姫物語

**④ PR活動でイベントに参加**

8/25 かでで夏祭り（階上町内）  
9/29 はちのへホコテン（八戸市）

PR活動でのイベント参加

**まとめ**

- ・今まで知らなかった階上のいいところを知り学ぶことができた
- ・地元の特産品を使って、グッズを作ることの楽しさを知った
- ・町内外の幅広い世代にPRできた
- ・コミュニケーション能力が上がった
- ・自信をもって階上のことを言えるようになった

まとめ

## 第2章 「地域のお宝」を学び地域活動を担う高校生育成事業について

### 1 事業概要

#### 「地域のお宝」を学び地域活動を担う高校生育成事業

| 現状・課題  | 事業内容   | 成果   |
|--|--|--|
| <p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○急激な人口減少と少子高齢化の進展</li> <li>○高校生の県外流出</li> <li>○小・中学生、高校生が地域資源のよさを学ぶ機会が少なく、地域に愛着はあるが、地域の歴史や文化に誇りを持っていない子どもが多い。地域活動に参加する若者が少ない。</li> </ul> <p>「住んでいる地域が好き」 87.3%<br/>「地域の歴史や文化に誇りを持っている」 16.9%<br/>「地域活動に参加したことがない」 25.2%<br/>(H29青少年の意識に関する調査)</p> <p>○市町村によっては地域の祭りや行事に参加する地元の高校生が少ない。</p> | <p><b>事業内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源を広く学び、地域のよさを再認識する取組の推進</li> <li>○社会全体で子どもたちを育み、地域の魅力を発信できる人財の育成</li> <li>○各市町村において高校生等若者世代を巻き込んだ地域活動の推進</li> </ul> <p><b>地域のお宝物語</b></p> <p>高校生が中心となってあまり知られていない地域資源を案内する「地域のお宝物語」の企画・実践を通して、地域への愛着と誇りを持って地域活動に参加し、地域の魅力を発信できる高校生を育成する。</p> <p><b>取組1 「地域のお宝物語」の企画(H30)、実践(H31)</b><br/>【12市町村の実行委員会に委託】</p> <p>(1)実行委員会の開催 12市町村(県内6地区×2市町村)<br/>・委員：高校生、若者世代、シニア世代、市町村教育委員会職員、企業・NPO、大学等</p> <p>(2)ワークショップの開催<br/>・参加者：高校生(リーダー)、小・中学生、若者世代、シニア世代</p> <p><b>取組2 企画・実践に向けた研修・交流会(3会場、教育事務所主管)</b></p> <p>各市町村代表の高校生を対象とする研修及び交流会</p> <p><b>取組3 取組成果の中間発表会(H30)、プレゼン大会(H31)</b></p> <p>各市町村代表の高校生による中間発表及びプレゼン大会</p> <p><b>取組4 情報発信と活用</b></p> <p>HPでプレゼン公開、活動事例集の作成・配布、学校の授業での活用</p> | <p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源のよさを再認識し、地域への愛着と誇りを持ち、地域の魅力を案内・発信できる小・中学生、高校生が育つとともに、地域の祭りや行事に地元の高校生が参加・協力するようになる。</li> <li>○12市町村の教育委員会や地域住民が高校生と連携して地域活動を推進するノウハウを得るとともに、その成果をその他の市町村が活用できるようになる。</li> </ul> <p>↓</p> <p>○地域を元気にする人財の育成</p> |
| <p><b>課題</b></p> <p>以下の取組が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各市町村における小・中・高校生が地域を理解し、誇りを持ち、地域の魅力を発信できる人財育成・体制づくり。</li> <li>○シニア世代が持つ知識・技能・経験の伝承</li> </ul>  |  |  |

### 1 本事業の目的

本事業は急激な人口減少と少子高齢化の進行、高校卒業時の県外流出が懸念される中、小・中学生、シニア世代等とともに自然・史跡・食・行事・伝統芸能などの地域資源の魅力を学びと体験活動を通じて再認識し、それらに関連付けて紹介する取組の企画・実践及び発表を行う取組を通じて地域への愛着と誇りを持って地域活動に参加し、地域の魅力を発信できる地域の未来を担う高校生を育成することを目的とする。

### 2 事業の実施期間

事業の実施期間は平成30年度から令和元年度までの2年間とする。

### 3 事業概要

#### (1) 「地域のお宝物語」の企画・実践

高校生が中心となり、小・中学生、シニア世代等とともに自然・史跡・食・伝統芸能などの地域資源の魅力を学びと体験を通じて再認識し、それらに関連付けて紹介する取組の企画・実践及び発表を行う。このため12市町村の実行委員会に取組を委託し、モデル事業を実施する。

※「地域のお宝物語」とは、地域住民にもあまり知られていない地域資源をもとに、高校生が自らの視点で自分たちの住むまちの「地域のお宝」を紹介するストーリー。

#### (2) 「地域のお宝物語」研修・交流会の開催（平成30年度）

各実行委員会の代表の高校生が集い、「地域のお宝物語」の企画方法を学ぶ研修と高校生どうしが情報交換をする交流会を開催する。（県内3会場で開催、教育事務所主管）

#### (3) 「地域のお宝物語」プレ発表会（取組成果の中間発表会）・プレゼン大会の開催

①各実行委員会代表の高校生による取組の中間発表と高校生の交流をする中間発表会を平成30年度に開催する。

②各実行委員会代表の高校生が「地域のお宝物語」の実践結果を発表する「地域のお宝物語」プレゼン大会を令和元年度に開催する。

#### (4) 情報発信と活用（令和元年度）

##### ①ホームページでの公開

県のホームページでプレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」及びドキュメンタリームービーを公開し、「地域のお宝」を活用した人財育成のモデルの普及・啓発を図る。

##### ②活動事例集の作成

活動事例集を作成し、県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村教育委員会等へ配布し、小・中学校、高等学校の総合的な学習の時間、生活科・社会科等の授業での活用を図る。

## 2 「地域のお宝物語」プレ大会（中間発表会）の開催

各市町村実行委員会が、平成30年度に年度に取り組んできた「地域のお宝物語」の企画内容を発表するとともに、代表の高校生の交流の場とすることを目的として開催した。

- 開催日時 平成31年2月2日(土) 13:00~15:40
- 会場 県総合社会教育センター
- 内容 12市町村実行委員会代表の高校生による発表  
ポスターセッション交流会

### 【12市町村実行委員会代表の高校生による発表】

発表内容

- ①企画内容（「地域のお宝」の対象及び活動のテーマ・方針など）
- ②実行委員会のメンバー、今年度の活動内容の紹介
- ③次年度の方向性

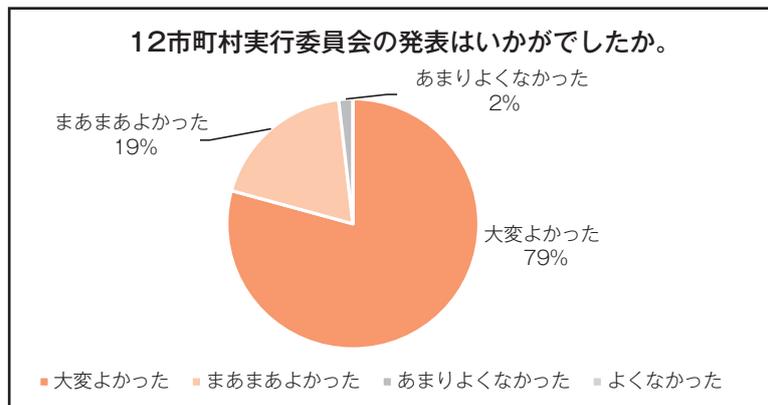


青森市実行委員会



平内町実行委員会

### 参加者アンケート



### アンケート自由意見 ※主なもの

- ・若者目線でのまち歩きやイベントを実施して、高校生から町のお宝を発信できる環境が素晴らしい。
- ・各市町村で様々な活動をしていることがわかった。その活動についてもっと広く知ってもらえば、それぞれの活動が今以上によい活動になると思った。
- ・高校生が自分たちの言葉で話しているのがとてもよかった。高校生と地域の取組が大変勉強になった。
- ・高校生にとって、とてもよい経験だと思う。地域校に勤務しているが、同様の活動を指導していくにあたって具体的なイメージを持つことができた。
- ・事業参加を通じて、高校生が自発的に積極的に変わっていく様子を感じた。ITの発達で情報収集は容易だが、体験が減っている。このような実体験こそが高校生の心を育てると思う。（実行委員）

**【ポスターセッション交流会】**

高校生たちの交流及び各市町村実行委員会委員の情報交換を実施

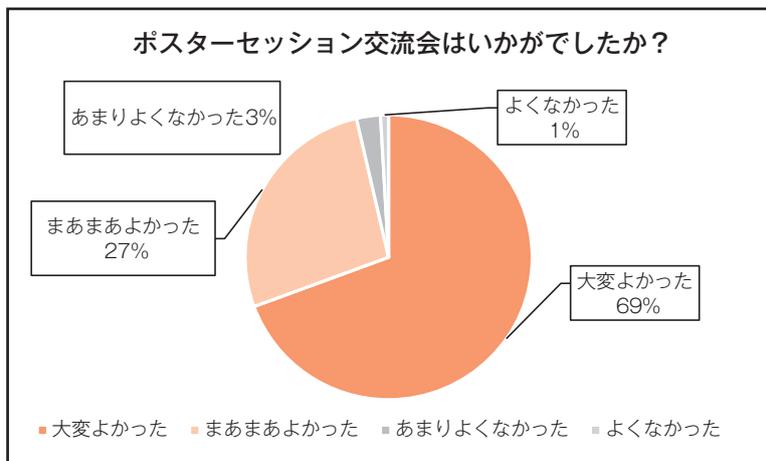


東通村実行委員会



階上町実行委員会

**参加者アンケート**



**アンケート自由意見** ※主なもの

- ・本人に直接質問できたりアドバイスできたり、高校生同士学び合えたりするところがいいと思った。
- ・多くの市町村の発表が聞くことができた。高校生は、知り、体験することで新たな発見をし、たくさんのことを考えるきっかけになると思う。その可能性を周囲の大人が伸ばせたらよいと思った。
- ・この催しで、青森県内のお宝を一挙に知ることができた。
- ・パンフレットを配ったり、ゆるキャラの被り物をしていたり工夫されていて、楽しく聞くことができた。ポスターもがんばって作成したことが伝わり、感動した。
- ・もう少し市町村間の交流の時間を増やしてほしい。高校生だけの交流もしてみたかった。(参加高校生)

### 3 「地域のお宝物語」プレゼン大会の開催

各市町村実行委員会の高校生が取り組んできた「地域のお宝物語」の実践結果を発表するとともに、代表の高校生の交流の場とすることを目的として実施した。

- 開催日時 令和2年2月1日(土) 13:00~16:00
- 会場 アピオあおもり(県男女共同参画センター)
- 内容 12市町村実行委員会代表の高校生による発表等

#### 【12市町村実行委員会代表の高校生による発表】

発表内容

- ①活動のテーマ・方針等の紹介
- ②プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」の発表



むつ市実行委員会



三戸町実行委員会



三沢市実行委員会



審査委員 講評・助言

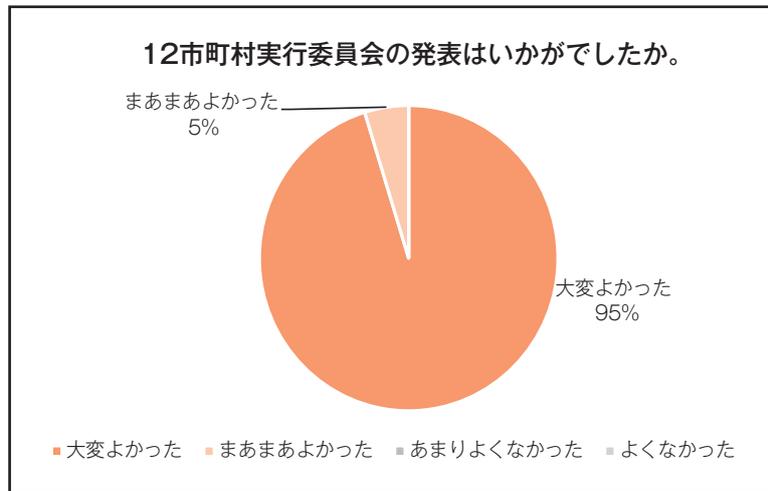
#### 審査結果

ストーリー特別賞：つがる市、大鰐町、三戸町、階上町  
プレゼン技能特別賞：青森市、五所川原市、三沢市、東通村  
地域愛特別賞：平内町、黒石市、野辺地町、むつ市

#### 審査委員

みちのく銀行地域創生部 参与 神 重則  
つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子  
弘前路地裏探偵団 団長 鹿田 智崇  
特定非営利活動法人十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子  
イカす大畑カダル団 理事 桜田 真佐  
まちぐみ 組長 山本 耕一郎

### 参加者アンケート



### アンケート自由意見 ※主なもの

- ・どの地域も、昨年の発表会より格段にレベルアップしていた。
- ・高校生が堂々と発表したり、質問に答えたりする姿に感動した。大人との交流で成長することができたのだと感じた。
- ・どの団体も賞がとれるようにしている点がよかった。どの実行委員会にも、滑舌よくはっきりと話すことのできる高校生がいて、とても聞きやすかった。
- ・高校生が地元の方とふれあっている姿が素晴らしいと思った。学校を離れた活動というのが新鮮だった。
- ・参加した高校生だけでなく、関わった大人の皆さんも刺激を受けてよい経験になったと思う。
- ・課題の設定やプレゼンの内容・方法には、地域性やメンバーのオリジナリティが感じられ、実行委員の皆さんの熱意も十分に伝わるよい大会だった。
- ・他の地域での取組を知ることができて、自身の知識、視野、考え方を広めることができた。とてもよい経験になった。(高校生委員)
- ・楽しんで、地域を知って、発信する姿がとても印象的だった。これからもがんばって青森を発信して欲しい。
- ・各団体とも、それぞれの地域の魅力を十分発信することができたと思う。この貴重な経験を自分の力にするとともに、これからどこへ行っても青森のお宝を大事にしていきたい。
- ・大変楽しく、興味深く聞かせていただいた。高校生の皆さんには、しっかりふるさとを知って世の中に出て行ってほしい。
- ・工夫のある発表だった。プレゼン大会までの過程の中で、人々とのふれあいや、学んだこと等の紹介も聞きたかった。
- ・どの発表も素晴らしく、もっと多くの皆さんに見ていただきたい内容だと思った。今後、校内発表や他地域・他校への出張発表の機会等があればいいと思う。

## 4 事業発信の案内

本事業の取組概要、プレゼン大会の案内、各実行委員会の取組の様子等を紹介するために、青森県庁ウェブサイト内にページを作成し公開している。

- ウェブページ名称：「地域のお宝」を学び地域活動を担う高校生育成事業
- URL： [https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/tiiki\\_no\\_otakara.html](https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/tiiki_no_otakara.html)

The screenshot shows a website page with a dark header containing a search bar, navigation links like '暮らし' and 'しごと', and a '県外の方' button. The main content area has a title '「地域のお宝」を学び地域活動を担う高校生育成事業' and a sub-header '「地域のお宝物語」プレゼン大会 開催のお知らせ'. Below this is a paragraph describing the project's goal to nurture high school students who can promote local charm. It includes links for '開催要項' (85KB) and 'チラシ' (1966KB). A large poster for the 'Local Treasure Story Presentation Contest' is displayed, featuring the date '令和2年2月1日' and 'アピオアピオアイベントホール'. Below the poster is a '大会の概要' section with the date and time: '令和2年2月1日(土) 13:00~16:00'.

※右のQRコードを読み込むと  
上記ページにアクセスできます。



身近すぎて気づかない地域の魅力、あなたも掘り起こしてみませんか？

「地域のお宝」を学び地域活動を担う高校生育成事業活動事例集

---

発行年月 令和2年3月

発行 青森県教育庁生涯学習課

〒030-8540 青森市長島1丁目1番1号

Tel 017-734-9888 Fax 017-734-8272

